

14. 5-452



5

452

日本學術振興會年報 第7号

(自昭和14年4月
至昭和15年3月)

日本學術振興會

国立国会図書館



始



35943



日本學術振興會年報

第七號

自昭和十四年四月
至昭和十五年三月

貴族院
B
305
0612

日本學術振興會

本部 東京市麴町區霞ヶ關文部省構内

電話 銀座 (57) 一五五

文部省電話銀座 (57) 五七七

振替口座東京四三三七〇番

災害科學研究所

第一部 大阪市東成區勝山通九 大阪管區氣象臺内
 第二部 大阪市北區東野田町九 大阪帝大工學部内

物理探鑛試驗所

東京市麴町區下二番町四八 地學協會内
 電話 九段 (33) 五〇九番

パラオ熱帶生物研究所

南洋パラオ群島コロール村八二八番ノ一番



Japan Society for the Promotion of Scientific Research

14.5
452

總裁 役員及職員

總裁

秩父宮雍仁親王殿下

顧問會
 理事長

元内閣總理大臣	元内閣總理大臣	元内閣總理大臣	陸軍總大臣	元内閣總理大臣	文部大臣	貴族院議員	理化學研究所長	住友本社總理事	貴族院議員	同	商工次官	大阪帝國大學總長	慶應義塾大學總長	文部省專問學務局長	海軍大將
廣田	林銑十	近衛文義	公田	赤間信	稻畑勝太郎	大橋新太郎	小倉正恒	大橋新太郎	小野塚喜平	法博	岸野塚喜平	楠本長三	小泉信三	關口鯉	財部
毅	郎	鷹	田	文	太郎	正	敏	恒	次	博	信	三	三	鯉	彪

81W03487

評議員會會長
理事長
總務部長
總務課長
調查課長(兼)
學術部長
學術部次長
常務課長
企畫課長
研究課長
災害科學研究所
常務委員會之長
災害科學研究所長
同第一部長
同第二部長
同事務長

帝國學士院會長	男博一木喜德郎
理事	法博岡半太郎
主理	財博西信彪
主理	醫博林春雄
主理	工博波多野貞夫
主理	熊谷幾也
主理	坂本重關
主理	井上爲吉
主理	財博本部長三郎
主理	醫博楠本長三郎
主理	理博和達清夫
主理	大坂管區氣象臺技師
主理	工博鉛邊巳丑太郎
主理	大阪帝國大學工學部長
主理	大阪帝國大學事務官

監事

早稻田大學總長	法博田中穗積
陸軍技術中本部長	工博多田禮吉
東京商工會議所副會頭	鶴見左吉雄
海軍艦政中本部長	豐田副武
海軍中本部長	理博長岡半太郎
帝國學士院議長	工博平賀讓
東京帝國大學中本部長	工博波多野貞夫
海軍造船中本部長	工博羽田亨
京都帝國大學總長	文博羽田春雄
公衆衛生院長	醫博林多光太郎
東北帝國大學總長	理博本多光太郎
帝國燃料工業株式會社總裁	工博牧田環
貴族院議員	法博松岡均平
興亞院技術部長	宮本武之輔
陸軍大將	吉田豐彦
理化學興業株式會社取締役	植村澄三郎
大藏省預金部資金局長	廣瀨豐作
第一生命保險相互會社會長	矢野恒太郎

各種委員會委員長

部

委

員

會

委

員

長

委員數

總務部

財務委員會

財部

員

長

一二

滿洲委員會

鈴木梅太郎

太

郎

一四

朝鮮委員會

速水滉

水

滉

二三

國民體力問題考查委員會

財部

部

員

二五

體育委員會

林春

春

雄

五

優生委員會

三宅鑛

宅

鑛

八

衣住委員會

戶田正三

田

正

八

食糧委員會

松井春生

井

春

四

學術部

第一常置委員會(法律學、政治學)

松本烝

本

烝

一

第九小委員會(明治以降立法資料蒐集)

加藤正治

藤

正

四

第十四小委員會(經濟統制立法の研究)―新設

末弘嚴太郎

弘

嚴

〇

第二常置委員會(哲學、史學、文學)

吉田熊次

田

熊

四

第十五小委員會(東亞古蹟調査)―新設

羽田亨

田

亨

七

第十七小委員會(日本古典翻譯)

瀧精一

瀧

精

三

第三常置委員會(經濟學、經營學)

鹽澤昌次

澤

昌

五

第四小委員會(社會政策研究)―新設

河田嗣郎

田

嗣

三

第二十三小委員會(中小工業問題研究)

上田貞次

田

貞

一

第三十八小委員會(價格統制の基礎的研究)

土方成美

方

成

二

第四常置委員會(數學、物理學、天文學、地球物理學)

岡田武松

田

武

八

第十小委員會(宇宙線の研究)

長岡半太郎

岡

半

八

第五常置委員會(純正化學、應用化學、藥學、農藝化學、化學工業)

麻生慶次郎

生

慶

〇

第十二小委員會(有機合成研究)

黑田泰造

田

泰

八

第十三小委員會(觸媒の研究)

片山正夫

山

正

三

第三十一小委員會(合成ゴムの綜合研究)

田中芳雄

中

芳

二

第三十四小委員會(硝子及耐火物の綜合研究)

黑田泰造

田

泰

一

第四十一小委員會(合成纖維の研究)―新設

厚木勝基

木

勝

一

第六常置委員會(地震學、地理學、海洋學)

山根新次

根

新

七

第二小委員會(本邦、滿洲、鑛床研究)

井上禧之助

上

禧

九

第二十一小委員會(東亞地質の研究)―新設

山根新次

根

新

九

第七常置委員會(動物學、植物學、人類學)

服部廣太郎

部

廣

九

第十一小委員會(南洋に於ける熱帯生物研究)

柴田桂太

田

桂

九

第八常置委員會 (醫學、衛生學)	田宮猛雄	一二
第三小委員會 (日本に於ける流行性腦炎の研究)	稻田龍吉	一九
第七小委員會 (トラコーマに關する研究)	長與又郎	六
第八小委員會 (結核研究)	長與又郎	二六
第十六小委員會 (國民榮養の基準に關する研究)	柿内三郎	六
第二十小委員會 (東北地方民衣食住改善に關する研究)	林春雄	九
第二十二小委員會 (體力研究)	林春雄	一七
第二十六小委員會 (優生遺傳研究)	三宅鏞一	九
第二十七小委員會 (衣住問題研究)	戸田正三	一三
第二十八小委員會 (北支、滿蒙開發に必要な衛生學的調査研究)	小泉親彦	一四
第四十小委員會 (近視眼に關する研究)	石原忍	七
第九常置委員會 (應用物理學、機械工業、船舶工業、航空機工業、採鑛學、冶金學)	桂山直人	一八
第五小委員會 (腐蝕防止に關する研究調査)	龜山直人	二八
第六小委員會 (磨耗機構の研究)	朝倉希一	一〇
第十九小委員會 (特殊鋼材の製造に關する研究)	依國一	三一
第二十四小委員會 (鑄物研究)	石川登喜治	二二
第二十五小委員會 (金屬材料の疲勞に關する研究)	小野鑑正	一四

第二十九小委員會 (精密機械の綜合研究)	青木保	二二
第三十小委員會 (メタリックパッキング基礎研究)	沖中豐	二〇
第三十五小委員會 (金屬材料の節約に關する研究)	田中豐	一四
第三十六小委員會 (チユラルミンの綜合研究)	桂山直人	二二
第三十七小委員會 (電子顯微鏡の綜合研究)	瀬藤象二	一三
第四十二小委員會 (軸承に關する研究) - 新設	紀伊壽次	一一
第十常置委員會 (應用電氣學、電氣工業)	大山松次郎	一五
第一小委員會 (無線裝置研究)	澁澤元治	四五
第十八小委員會 (電氣材料の研究)	本野亨	四一
第十一常置委員會 (土木學、建築學)	橋口行彦	一三
第三十二小委員會 (防空科學の綜合研究)	内田祥三	二四
第三十三小委員會 (現地に於ける構築材料の利用に關する研究)	藤井眞透	二一
第三十九小委員會 (東亞に適切なる建築に關する研究) - 新設	内藤多仲	一六
第十二常置委員會 (農學、林學、獸醫學、水産學)	齒部一郎	一九
第一特別委員會 (學術部關係方面との連絡)	波多野貞夫	一九
第二特別委員會 (滿支經濟問題の研究)	神戶正雄	一九
第三特別委員會 (太平洋島嶼の長期昇降に關する研究)	岡田武松	九

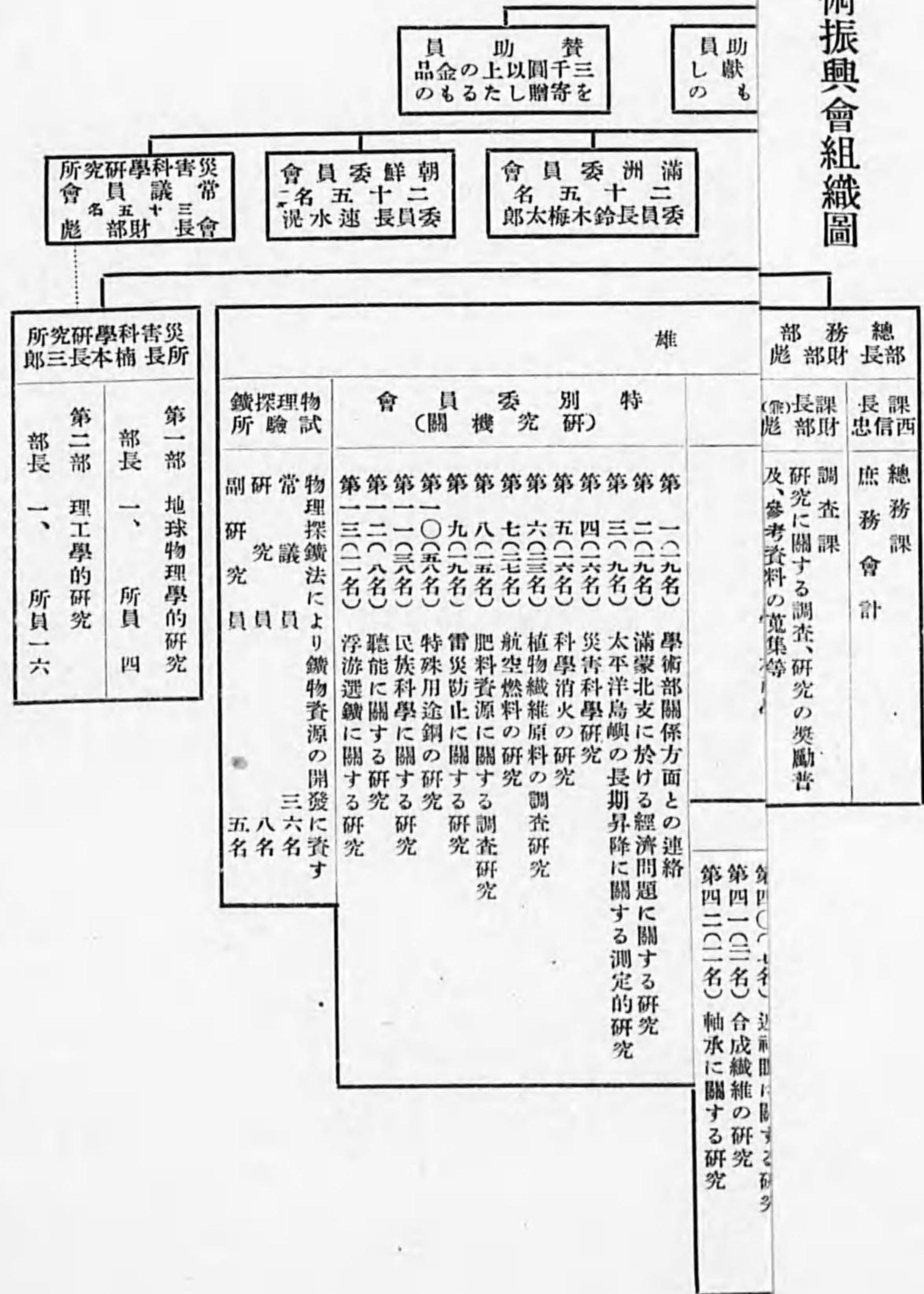
第四特別委員會 (災害科學に關する研究)	岡田武松	一六
第五特別委員會 (科學消火に關する研究)	片山正夫	一六
第六特別委員會 (植物纖維原料の調査研究)	佐藤寛次	二三
第七特別委員會 (航空機燃料の研究)	田中芳雄	二七
第八特別委員會 (肥料資源に關する調査研究)	麻生慶次郎	一五
第九特別委員會 (雷災防止研究)	藤原咲平	一九
第十特別委員會 (特殊用途鋼の研究)	依國一	五八
第十一特別委員會 (民族科學の研究)	林春雄	三八
第十二特別委員會 (聽能に關する研究) 新設	橋口邦彦	八
第十三特別委員會 (浮游選鑛に關する研究) 新設	佐野秀之助	一一
物理探鑛試驗所 (地球物理學的方法に依る探鑛及地質調査)	金原信泰	五一

役員、委員數 (昭和十五年三月現在)

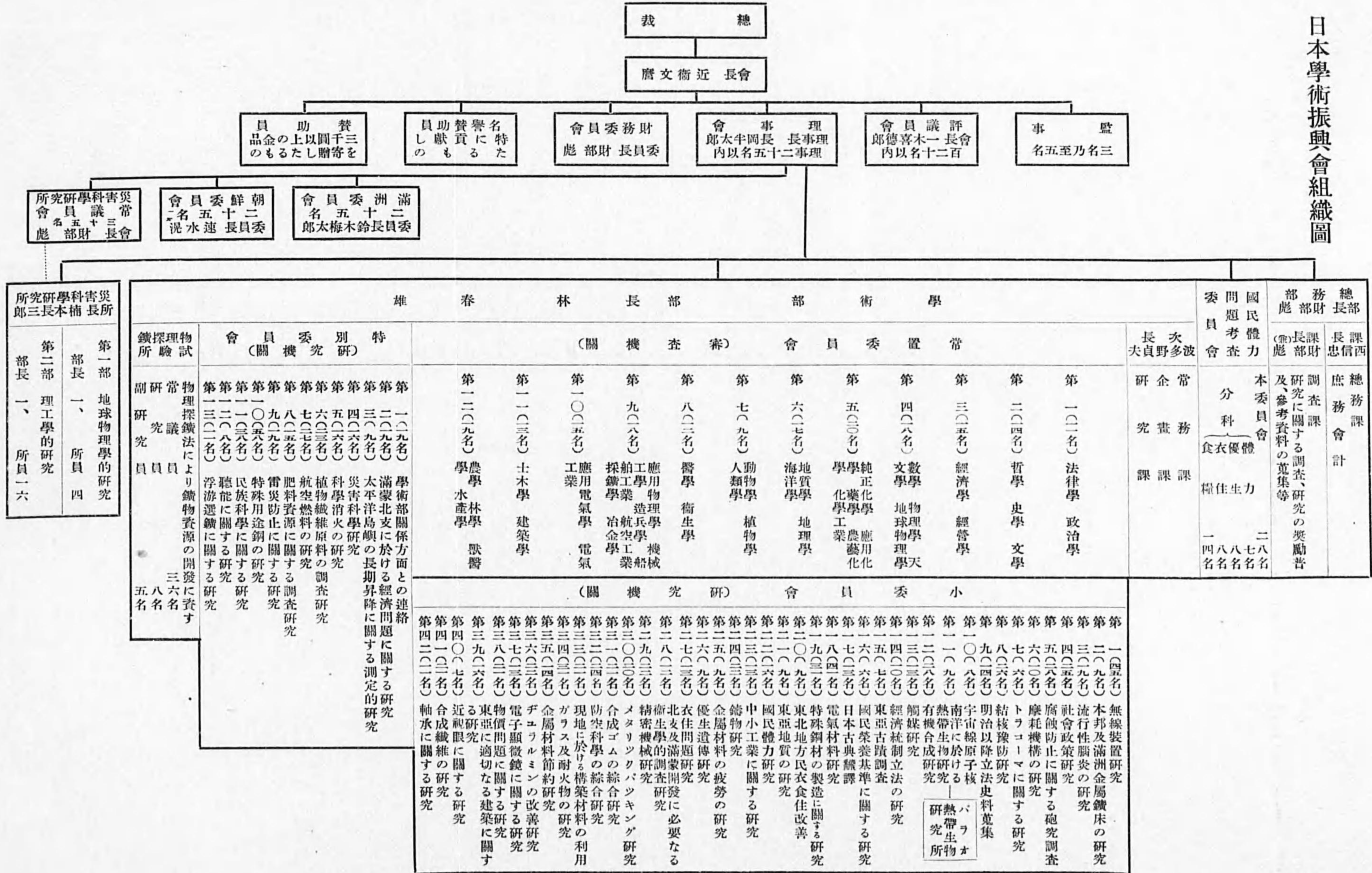
理事	二十五名
監事	三名
評議員	百十一名
名譽贊助員	三名

贊助員	九十二名
學術部各種委員	九百十二名
總務部關係委員	百九名
災害科學研究所常議員及所員	五十四名
以上合計	千三百八名

日本學術振興會組織圖



日本學術振興會組織圖



前附 總裁 役員及職員、各種委員會委員長、役員委員數、日本學術振興會組織圖

目次

一、日本學術振興會概況	一
二、創立以來の事業大要	四
三、總裁宮殿下の御獎勵	六
四、建議 上 申	八
五、研究及援助要綱	九
六、綜合 研究	九
(一) 特別委員會に於ける研究	
(二) 小委員會に於ける研究	
七、研究所及試験所	二七
(一) 災害科學研究所	
(二) 物理探鑛試験所	
(三) パラオ熱帯生物研究所	
八、個人研究の援助	三二
九、受託研究事項	五五
十、用途指定寄附金による研究事項	五六

- 十一、滿洲及朝鮮委員會……………六三
 - (一) 滿洲委員會 (二) 朝鮮委員會
- 十二、國民體力問題考查委員會……………六四
- 十三、講演會……………六四
- 十四、一般會務……………六五
 - (一) 政府補助金 (二) 理事會議事要項 (三) 評議員會議事要項 (四) 諸規程中變更
 - (五) 晚餐會 (六) 民族優生展覽會 (七) 會計監査 (八) 事務所移轉 (九) 刊行物
 - (十) 寄附者表彰
- 十五、役員異動……………七〇
- 十六、會計……………七三
 - (一) 昭和十三年度歳入歳出決算 (二) 昭和十四年度歳入歳出豫算 (三) 基本財産
 - (四) 積立金 (五) 不動産 (六) 寄附金、品

附録

本會編纂圖書目錄

一、日本學術振興會概覽

(一) 設立經過

學術の研究は實に國家興隆の基礎にして又世界文化の源泉なり。我學界有識者間に於ては夙に之が振興の實現力を唱導し來りしが、特に近年世界に於ける産業的經濟的競争愈々熾烈を加へ、我國に於ける政治、經濟、思想の各方面に於て非常なる難關に遭遇するに及び此の難局を打開し、世界競争場裡に優位を確保すべき根本對策は學術研究の振興を措いて他に之を求むべからざるを以て、昭和六年一月小野塚喜平次、古市公威及櫻井錠二の三博士發起の下に我學界及關係各方面の有志者會合の結果學術振興の一大運動を開始するに至れり。是より先前述學界の運動は各方面より多大の共鳴を以て迎へられ、同年貴衆兩院は學界の建議と其の趣旨を同じうせる建議案を滿場一致を以て可決し、越えて昭和七年に入り國防竝に産業界に於ける絶大なる贊助を得爰に學界、國防界及産業界の密接なる連繫成り各界協力同心速に學術の振興を圖り以て國防の充實産業の開發を期することゝなれり。然れども學術振興機關の實現に至りては尙未だ曙光だに認むるに至らず、關係者一同日夜焦慮措く能はざるものありしが、圖らずも同年八月二十日文部大臣は畏くも 聖上陛下より學術振興基金の御補助として御内帑金百五拾萬圓御下賜の御沙汰を拜したり。之を傳承したる關係者の感激實に言語に絶するものありたり。是に於て同大臣は聖旨を傳達し、學界、産業界、國防界の有力者を招集して協議を開き、櫻井博士外十二名を特別委員に指名し、學術振興機關設立準備の事に當らしめ其の成案を得るに及び、同年十二月六月開催第二回協議會に於て寄附行爲其の他の原案を可決し内閣總理大臣子爵齋藤實推されて會長に就任せり。

以上の経過を以て日本學術振興會の設立は愈々確定的となり、昭和七年十二月二十八日財團法人として本會の設立を見るに至れり。

(二) 目的及事業

本會の目的は寄附行爲第三條に示さるゝ如く、學術研究を振興し其の應用を圖り、文化の進展、産業の開発、國防の充實に資し以て國運の興隆並に人類の福祉に貢献するに在りて該目的を達する爲め左の事業を行ふ。

研究に關する諸般の調査を爲すこと。

學術並其應用の研究に對し各種の援助を爲すこと。

有益なる研究者の養成を援助すること。

聯合研究を奨励援助すること。

重要問題の研究状態を調査し其解決策及之が實行方法を講ずること。

發明考案の産業化を奨励援助すること。

學術探險旅行費の補助を爲すこと。

學術文獻を出版し又は出版費の補助を爲すこと。

必要に應じ研究並産業化其他の試験を行ふこと。

其他理事會に於て適當と認むる事業を行ふこと。

因に記す寄附行爲第四條規定の援助補助を申請せんとする者は學術上若は産業上の公私施設、團體等の責任者又は本會の役員若は委員の推薦あるを要す。

(三) 資産及會計

本會の資産は御下賜金、寄附金、政府補助金等より成り其の一部を以て基本財産を構成し、經費は基本財産より生ずる収益、政府補助金及用途指定寄附金等を以て之を支辨す。

(四) 組織 (前附組織圖參照)

本會は總裁に 秩父宮雅仁親王殿下を推戴し役員として會長一名、理事二十五名以内、監事三名乃至五名、評議員百貳拾名以内を置き、會長は會務を統轄し、理事長は理事會並に評議員會の議決に基き會務を總理す。

財務委員會は理事及監事中特に財界に關係深き者並に財界關係者を以て組織し寄附金の募集及財産の増殖運用等に關する事項を審議す。

滿洲委員會及朝鮮委員會は同方面に於ける學術研究機關及産業方面との連絡を計り以て學術の振興發達に資する爲めに設けらる。

本會の事務を所辨する爲總務部及學術部の二部を置き、災害科學研究所は理事長に直屬する別箇の研究機關なり。

(1) 總務部 は總務及調査の二課に分たれ庶務會計及調査普及事務を掌り、兼ねて財務委員會、滿洲委員會、朝鮮委員會及考查委員會に關する事務を管掌す。

考查委員會は時々發生する國家重要問題に就き臨時編成し學術的に急速解決に資せんとするものにして曩に東北振興考查委員會、大阪地方災害考查委員會の設置を見たるが右は何れも其の任務を終了して解散し、現在に於ては國民體力問題考查委員會を存するのみなり。同委員會は體力問題の解決に資する爲め昭和十一年六月の設置に係り體力、優生、衣住、食糧の四分科に分たる。

(2) 學術部 は常務、企劃及研究の三課に分たれ援助及補助の審査、研究及試験に關する事項等を管掌し學術部長たる理事常務を擔任す。

學術部は十二の常置委員會を置く、本委員會は事業の企劃及實施を審議する機關にして、必要に應じ委員會内に各種の小委員會を置き研究に従事す。パラオ熱帯生物研究所は第十一小委員會(熱帯生物研究)に附屬する研究機關なり。

特別委員會は重要事項又は數個の常置委員會共通の事項を調査審議する爲めに之を設く。

物理探鑛試験所は學術部長の管下に屬し物理探鑛法により鑛物資源の開發に資するため關係諸會社の特別寄附金により、舊第五特別委員會(地球物理學的方法に依る探鑛及び地質調査に關する研究)の研究を繼承し、昭和十三年四月一日の設立に係る。

(3) 災害科學研究所 昭和九年九月大阪地方を襲へる風水害の慘禍に鑑み、大阪地方災害考査委員會にて考査の末、民間より金六拾參萬圓餘の寄附金を得天災地變等の災害を豫知し之を未然に防止する目的を以て昭和十二年一月十日大阪に開設せられたるものにして、二部に分たれ第一部を大阪管區氣象臺に置き地球物理學的研究を行ひ第二部を大阪帝國大學工學部内に設け理學的研究を施行す。

二、創立以來の事業大要

本會の目的は前章中記述の如く學術の研究を促進し、その應用を圖り文化の進展、産業の開放、國防の充實に資し、國家の進運に貢獻するにありて、創立以來各種研究の援助、研究者の養成並に綜合的研究を獎勵援助し來れり、就中

綜合研究にありては官民朝野を問はず各方面の研究家、實地家を糾合して委員會を組織し、衆智を集めて研究の完璧を期し、以て各種問題の解決を圖り、殊に支那事變勃發以來簇出せる軍事、産業、衛生其他科學的應用を必要とする緊急問題の研究に従事せるが長くも、天皇陛下に於かせられては時局緊急問題の研究に對する本會の努力を嘉せられ去る昭和十三年特別の思召を以て御内帑金を該研究資金の内へ下賜あらせられたり。

本會設立以來七ヶ年間本會に於て個人研究に對し援助せる件數は貳千參百七拾件(事項數壹千參百五拾九件)其の金額貳百六拾五萬圓に上り、内研究の終了せるもの四百五拾七件に及ぶ、援助研究事項の主なるものを擧ぐれば人文方面に於ては我國慣習の法律的研究、神道の研究、本邦古藝術の研究、教育制度の研究、人口問題、移民問題、農村經濟、貿易の統制、中小商工業等の問題等。又自然科學に於ては現今世界學界注意のたる元素轉換並に宇宙線の研究あり、前者にありては世界最大の一に數へらるゝ貳百拾陸のマグネットを有する大サイクロトロンを建設し、後者にありてはメソトロンの質量を測定し、又物理學、天文學、地震學、氣象學、電氣及磁氣學、化學、地質學、地理學、海洋學、生物學、醫學、工學、農學等の重要問題の研究を援助せり、産業方面に於ては紡績及毛織、石炭の液化、船底塗料、航空機體及機關並に之が各種原料、材料、工作機械、原動機、化學工業用裝置、電氣機器、一般及無線通信裝置、電氣用材料、砂鐵の利用、採鑛及選鑛、其の他工業、建築、土木、農業、畜産業、林業、水産業等に關する研究あり、其れ等諸研究中には直接國防に關係を有する諸問題も亦少なからず。

前述研究終了事項四百五拾七件は援助總數の約六十四%に當り、其の内には從來費用不如意のため着手難にありし純學術的研究あり、又應用方面の研究中には産業上、國防上裨益する處のもの多く、就中蠶糸統制、貿易統制の研究は事變下に於ける政策樹立の礎石となり、船底塗料、紡績機、石炭液化の如きは目下實用化の途上に屬し、劃期的改善

を豫期せらるゝものなり。

本會設立以來設置せる綜合研究機關は災害科學研究所、物理探鑛試驗所、考查委員會三、特別委員會十二、小委員會五十一にして委員及研究者の數は壹千五十人の多數に上り、内研究を終了せるもの十二を算し、何れも關係方面を裨益せる處大なるものあり。過去七ヶ年間に於て研究のみに使用せる金額は實に四百拾五萬圓に達す、研究の範圍は人文及自然科學の全領域に亘り純學理的及應用的研究を行ひ、現下の國家重要問題は略之を網羅し、前述事變關係緊急問題の如き着々之れが解決を期しつゝあり、從來我國に於ける學者の基本應用研究の實用化は種々困難の途に横はるもの存せしも、本會に於ける綜合研究開始以來良好なる結果を擧げつゝあるは大に賀すべき處なりとす。
本會創立以來隨時設置せる考查委員會は大阪地方災害考查委員會、東北振興考查委員會及國民體力問題考查委員會の三にして前二者は何れも昭和九年の設立に係り、内大阪地方災害考查委員會は數次の會合審議を経たる後新に本會所屬の災害科研究所を大阪に開設することとなり、東北振興考查委員會は慎重審議の結果東北地方冷害の長期豫報上千島列島附近の結氷状態調査に關する事項外東北振興關係事項十數件の具體案を政府に提供し又國民體力問題考查委員會は昭和十一年の設置に係り現に體育、優生、衣住、食糧の各分科に於て研究調査續行中に屬す。

三、總裁宮殿下の御獎勵

總裁 秩父宮殿下には軍務特に御多端の際なるにも拘らず、豫て本會の事業に御關心を垂れさせられ、本年度に於ては左記常置委員長、特別及小委員會委員長を順次御殿に御召の上、本會に於て援助せる個人研究並に本會に於て施行せる綜合研究の経過及成果を御聽取あらせられ、種々御下問と御激勵の御言葉を賜はり全員感激一層研究に力を致し居れり。

尙 殿下には關西地方御成りの機を以て昨年九月八日在大阪災害科學研究所へ臺臨あらせられ、親しく研究事項御視察の榮を賜はりたり。

昭和十四年 四月 六日	第十一常置委員長	藤井眞透
十三日	第十常置委員長	瀬藤象二
廿七日	第九常置委員長	桂辨三
五月 四日	第十二常置委員長	安藤廣太郎
九月 廿一日	第十四小委員長	佐野利器
廿八日	第十五小委員長	佐藤寛次
十月 五日	第十六小委員長	柿内三郎
十二日	第十七小委員長	瀧精一
十九日	第十九小委員長	依國一
廿六日	第廿三小委員長	上田貞次
十一月 二日	第廿九小委員長	青木保郎
九日	第十八小委員長	本野亨
十六日	第七特別委員長	山田三良
十五年 一月 廿五日	第一常置委員長	田中芳雄
二月 一日	第二常置委員長	吉田熊次

廿九日 第四常置委員會委員長 岡田武松
三月七日 第五常置委員會委員長 麻生慶次郎

四、建議上申

本會に於て實施せる研究に關聯し本年度に於て政府へ意見を具申せる事項左の如し。

(一) 生活科學研究所設置に關する建議

日滿支を通ずる「國民生活」の本態につき醫學を中核とする自然、人文兩科學の綜合的調査研究を遂げ新東亞建設の大業に資すること緊切なるもの存するを以て、昨年度に於ける理事會の決議に基づき右に關する建議を十四年四月政府當局宛提出せり。

(二) 國民體力向上の根本策として民族優生に關する研究促進の件

國民體力の眞の向上強化を圖らんが爲には從來の環境衛生學的改善のみにては甚だ不十分にして、更に進んで國民出生の先天的事情即ち之が遺傳の素質改善に努力の必要あり、仍て右に關する研究促進の要を政府へ具申せり。

(三) 國民食糧に關する綜合的中央企畫機關設置に關する件

國民體力向上の見地より特に設けられたる委員會に於て調査研究せる國民食糧に關する結論を進達せり。右の外學術部特別及小委員會の發議立案に係る合成樹脂研究機關設置の件、滿洲產耐火爐材原料輸入繼續の件、生産能率増進施設設置の件、價格統制に關する件、特殊硝子用酸化コバルトの使用禁止の件並に支那幣制緊急對策、緊急物價對策案に關し政府當路に對し夫々上申又は申請せる處ありたり。

五、研究及援助要綱

本會に於ては毎年度開始前に於て豫め學術振興具體案を定め該方針の下に研究及援助を實施す、即ち昭和十四年度に於ける本會施行研究の企劃、獎勵並に援助補助に對する方針は、國運の隆盛、民福の増進を主眼とせるものにして、之が實現を期するため國家的主要問題に力を致し、内綜合研究及び調査を要するものにおいて、經費の許す範圍に於て之が實施を圖り、尙産業に關する綜合研究にありては自然科學並に人文科學の連絡に注意を加へ、本會が自ら企劃し之に基き研究調査を進むるものと、他より申請せるものを援助補助するものとの間に於て、何れも其の一方に偏せざる様意を用ひ、且つ以上研究調査の實施及援助補助にありては、特に有能なる研究者の養成を考慮に入れたり。尙問題の選擇に關し、人文關係に屬する法律、政治、經濟方面に在りては我國獨特の研究、我國の立法及び法律解釋に關する比較研究資料の蒐集並に現今の國家重大經濟問題の研究、文化方面に在りては我國獨特の研究、東洋文化の研究及び諸般の研究資料の蒐集に重きを置き、自然科學方面に於ては純正科學と應用科學との連絡を密にし、深遠なる學理を探究すると共に、國情に適應する獨創的基本應用を盛にし、更に其實用化の問題を選び、産業に對する基本應用研究及び實用研究事項としては、國家重要研究事項に重きを置きたり。綜合研究並に個人研究の援助事項は別項所報の如し。

六、綜合研究

應用研究は勿論純學理的研究にありても各方面の専門家による綜合的研究に俟つにあらざれば解決困難なる問題多數

存するを以て本會は設立以來特に綜合研究に力を用ゐる來り、即ち國家重要問題の解決に關しては隨時諸官衙、官公私立大學専門學校、同研究所試験所及有力會社協會等の學者専門家、經驗家等の權威を以て特別委員會又は小委員會を構成し綜合研究を實施し來り。

特別委員會は十四年度末に於て其の數十二を算し、小委員會は同年度末合計五十一を數へ、委員會及研究者の數は一千五十名に上れり。

本年度に於て新設せる特別及小委員會は左の如し。

- 第五特別委員會 科學消火に關する研究
 - 第八特別委員會 肥料資源に關する研究
 - 第九特別委員會 空中電氣に關する研究
 - 第十特別委員會 特別用途鋼に關する研究
 - 第十一特別委員會 民族科學に關する研究
 - 第三十六小委員會 チュラルミンの改善研究
 - 第三十七小委員會 電子顯微鏡に關する研究
 - 第三十八小委員會 物價問題に關する研究
- 又本年度に於て解散せる小委員會は左の如し。
- 第十四小委員會 耐震構造に關する研究
 - 第十五小委員會 養蠶問題に關する研究

第二十一小委員會 自作農制に關する研究

(一) 特別委員會に於ける研究

註、特別及小委員會による研究概要並に各委員會研究報告類は別に學術部より發行せらる。

第二特別委員會 (滿蒙及び支那經濟問題の研究) 設置 八、一一、八

滿洲農業移民問題、並に之と關聯して重大意義を有する滿洲自身及び接續邦土たる支那に於ける經濟問題に關し根本的研究を行ふものにして、滿洲農業移民問題に關する研究は曩に完了し爾來北支に於ける資源に付研究中なりしが事變以來之が經濟問題の全販に亘り研究を進め更に中南支方面にまで研究を進め居れり。滿洲農業移民問題研究の成果は既に夫々印刷發表せらる。(本年度豫算金二一、〇〇〇圓)

同分科會 (支那に於ける通貨及流通政策研究) 設置 一四、一一、四

支那事變以來既に二ヶ年を経過し、今や北支に於ては經濟建設の段階に到達し、注精衛の中央政府樹立亦將に近きにあらんとす。此の秋に方り北支の特殊情勢を認識せしむる爲にも、速かに經濟政策の大綱を確立するの要あり、就中最も緊急なるものは通貨問題にして、之れは單に金融方面よりしてのみ解決を期し得るものにあらず、廣く貿易、統制、國內に於ける物資配給の合理化及び物價の統制等凡ゆる流通の問題と關聯して、之れが解決を計らざる可からず、第二特別委員會に於ては從來此等の問題に關し研究を怠らざりしが此の際廣く専門の學者を動員し尙實際家をも加へて、特別分科會を組織し、緊急審議を進め以て其の歸趨を明かならしめんことを期するものなり。(本年度豫算金三、〇〇〇圓)

第三特別委員會 (太平洋島嶼長期昇降に關する研究) 設置 九、四、九

南洋委任統治區域諸島に於て驗潮により長期に亘る海面の高低を測定し、又一定の長期毎に同一點の經緯度の變化を測定し、之により島嶼の隆起沈降及び水平移動の現象を研究し以て陸地構成の過程を明にせんとするものにして既に第一回の水平移動を觀測し、過去十年内に於ては水平移動を爲さざる事を確めたり、驗潮所は既に完成し現に上下昇降の觀測に従事し居れり。南洋諸島の經緯度再測報告の出版あり。(本年度豫算金三、四〇〇圓)

第四特別委員會(災害科學研究)設置 一〇、二〇、二七

災害に關する全國的及全般的的基本問題の諸研究を行ひ、本邦に於ける各種災害の防止輕減に資せんとするものにして既に各方面の基礎研究を終へ、海洋風波の立體寫眞による研究、家屋に對する風壓の測定、防波堤の研究等を進め又有效なる風力計の製作に良好なる結果を擧げたり。(本年度豫算金一六、〇〇〇圓)

第五特別委員會(科學消火に關する研究)設置 一四、六、二六

理化學、機械學、建築學等各方面より科學消火に關する根本的綜合研究を行ひ、以て火災發生初期に於ける防止法、火災擴大阻止法を究明し、我國が蒙る火災による莫大なる災害の輕減に資せんとするものなり。(本年度豫算金七、〇〇〇圓)

第六特別委員會(植物纖維原料の調査研究)設置 一一、三、三一

我が國最重要産業の一にして且國防上肝要なる纖維工業に使用する植物性纖維原料に對し、需給状態を調査し、更に生産方法及び新原料を探究せんとするものにして、時局下に於ける本邦パルプ原料自給國策を樹立し、之に應ずる様研究を進むる一方、他の基礎研究を繼續しつゝあり。(本年度豫算金二七、〇〇〇圓)

第七特別委員會(航空燃料に關する研究)設置 一二、一〇、二六

航空發動機の效率を支配する重要々素たる使用燃料に對し、各方面の權威者の綜合研究により一日も速に自給自足原料により最適燃料を得んとするものなり。本研究は航空揮發油、航空デイズル油、航空潤滑油に就て研究實施中に屬す。(本年度豫算金二七五、〇〇〇圓)

第八特別委員會(肥料資源に關する研究)設置 一四、一〇

我國に於ては年々相當巨額の肥料を輸入し來れるが、事變以來之れが輸入禁止せられ、農業の基本となるべき肥料は頓に欠乏するに至れり、尤も硫酸、磷酸は辛うじて一部の需要を充たし得るも、加里資源は全く涸渴せりとも云ふべき状態にあり、如斯肥料の欠乏は農産物の減收を招くは勿論、地方消耗の原因となるは言を俟たず、國家的見地よりして、實に由々しき重大問題なりとす、之れが解決は國家長期建設の際、徒らに拱手遷延するを許さざるものあるを以て、本會に於ては去る十四年三月援助を與へ國內資源に就き調査せるに、有望なる結果を得るに依り、茲に新に本委員會を組織し、綜合研究を行ひ以て事變下窮乏の肥料資源の開發に資せんとするものなり、研究事項は本邦及朝鮮、滿洲、支那に於て加里を多量に含有する礦物、岩石の探検、含加里礦物岩石の成分、性質及利用、各地方に於ける燐礦探検、燐礦の成分、性質及利用、窒素肥料の新資源及び之が利用に關する研究に當らんとするものなり。(本年度豫算金四、五〇〇圓)

第九特別委員會(空中電氣に關する研究)設置 一四、一〇

空中電氣現象特に雷の研究は氣象學上重要なものみならず、之が本質の闡明は電氣工業、電氣通信、工作物及各種構築物就中燃料、爆發藥貯藏用構築物の避雷裝置の研究、更に落雷による人命損失の防止、其の他航空機、無線通信に於ける一般空電の防除對策の研究等にも須要欠くべからざる處あり、仍て優秀なる研究設備を整へ、空

中電氣の本質を闡明すると同時に、合理的なる避雷及雷災防止方法を案出し、有效なる空電対策を樹立せんとするにありて、主として空中電氣現象特に雷に關する氣象學的研究、雷雲の放雷機構に關する數量的研究、建造物特に電氣工作物に對する雷放電現象の研究、雷の豫報に關する研究、避雷裝置に關する研究、航空及無線通信に對する雷の妨害作用軽減方法の研究を爲す。(本年度豫算金六、〇〇〇圓)

第十特別委員會(特別用途用鋼材に關する研究) 設置 一四、一一

特殊用途用鋼に關する研究は既に鋼、鑄物及熔接の各委員會に於て着々成果を收めつゝありと雖も、時局は愈々此の種鋼の改善並に多量生産を必要とするが故に、從來の研究を本委員會に綜合し、以て該研究の強化進捗を計り、迅速所期の成果を收めんとするものなり。(本年度豫算額金五、〇〇〇圓)

第十一特別委員會(民族科學に關する研究) 設置 一四、一一

現今我國に於ける國防上及民族發展上憂慮に堪へざる重大問題の一は、國家の人的資源の質的及量的低下の問題なりとす。從て之れが系統的綜合的調査を行ふことは、時局下の緊急事に屬す、右は單に保健醫學方面の問題たるに止らず、人口の移動及産業形態の變化に關する問題なるが故に之れが解決に就ては關係各科専門家の協力による系統的綜合的調査研究に俟たざるべからず、本委員會は基礎研究に力を注ぎ、是れにより對策を決定し我國の民族樹立に資せんとするにありて、研究事項としては農村及都市に於ける青少年兒童の體力變化に關する綜合的系統的研究、農村及都市の人口動態と國民體力の動向に關する調査研究、人口の地方的産業的分布の變化、近代産業及經濟事項の變化の國民體力の變化に及ぼす影響に關する調査研究、農村家族制度の動向に關する調査、酒害に關する研究及び民族接觸及混血の問題等とす。(本年度豫算額金二、五〇〇圓)

(二) 小委員會に於ける研究

第一小委員會(無線裝置の研究) 設置 八、六、二八

先づ秘密を確保する無線通信方式を、次で無線裝置全般の改善を研究せんとするものにして、既に優良なる秘密無線裝置を設計し其の實用化試験を行ひ更に一段高きものゝ探求に歩みを進め居れり。(本年度豫算金八〇、〇〇〇圓)

第二小委員會(本邦及滿洲金屬鑛床の研究) 設置 一二、三、三一

本邦は鑛物資源に乏しきが故鑛床に關し充分なる調査研究を遂げ苟くも遺憾なからしめんが爲め、一方に於ては本邦及び滿洲に於ける從來の調査研究資料を蒐集し、他方に於ては調査不備又は未了の鑛床を調査し、之を學術的に綜合研究し鑛床の状態、性質、様式等を極めんとするものにして、本委員會の研究報告は非常時局下、鑛物資源開發に好資料を提供せり。(本年度豫算金二、〇〇〇圓)

舊第二小委員會(金屬材料常數の調査研究) 設置 八、一〇、二四

金屬材料に就て其の常數及び關係事項を蒐集し更に必要なる研究を行ひ、工業上の設計考案に資せんとするものにして、既に豫定の應力論、金屬特論、金屬總論、金屬各論、用途別索引の編纂を終へ之を出版したるを以て、一先づ調査蒐集を打切り更に適當の時期に於て改訂増補することになり居れり。(本年度豫算金九、〇四〇圓)

第三小委員會(流行性腦炎の研究) 設置 八、七、一九

流行性腦炎の病原、豫防及び治療を綜合研究により解決せんとするものにして、昭和十年本委員會は本病の病原體が濾過性病毒なることを確め、同十三年本病毒の大き測定され、更に本病には無病狀感染なるもの存すること

發見され、尙血清療法の開始を見るに至れり。(本年度豫算一七、五〇〇圓)

第五小委員會(金屬木材等の腐蝕防止方法等に關する調査研究) 設置 八、一一、一七

金屬木材等の腐蝕現象及び之に關する理論、防蝕方法、耐酸性金屬に關し綜合的調査研究を爲すものにして是れまで研究の結果輕金屬に對するクロム、マンガン、ベンリウム等の影響を明かにすることを得、又相當優秀なる防蝕塗料を製出し、尙廉價なる地下埋設鋼管として適當と考へらるゝ數種の含銅鋼を得たり、右の外腐蝕防止に關する有益なる研究少なからず。(本年度豫算金二〇、五〇〇圓)

第六小委員會(磨耗機構に關する研究) 設置 一一、三、三一

腐蝕と共に機械の保存に大なる影響を有する磨耗に對し一定の方針の下に既研究結果を綜合し其の機構を明かならしめ更に進んで實用上の問題に關し研究を遂げ優良なる機械の設計及取扱に資せんとするものにして、磨耗現象の一なる斑磨耗は金屬材料の疲れに依るものなること、又此の種の磨耗は潤滑劑により促進せらるゝことを鋼及びヂュラルミンに就て確めらる等種々重要な成果を見つゝあり。(本年度豫算金一〇、〇〇〇圓)

第六小委員會(米穀根本政策に關する理論及び實際的研究) 設置 八、一〇、一八

重要經濟問題の一なる米穀問題に對し、公正適切なる方策を研究せんとするものにして既に研究を完了し其の結果は之れを報告書として出版せり。(本年度豫算金九五〇圓)

第七小委員會(トラコーマに關する研究) 設置 八、一一、一〇

我國民病の一なる「トラコーマ」(トラホーム)の病源、豫防及び治療を綜合的研究に依り解決せんとするものにして各研究共相當進捗し着々成果を收めつゝあり。(本年度豫算金一〇、〇〇〇圓)

第八小委員會(結核豫防に關する研究) 設置 一三、四、一

結核の豫防に關し綜合研究を行ふものなり。

研究成果としてはツベルクリンの標準決定、BCG浮遊液作製法の改良、BCG被接種者選擇法の決定等あり。

(本年度豫算金四一、〇〇〇圓)

第八小委員會(アイヌの醫學的民族的生物學的調査研究) 設置 八、一二、一五

絶滅せんとする民族に對し醫學的綜合研究を行ひ、該民族の特徴を明かにし且つ其の保護向上に資せんとするものにして既に膽振、樺太、十勝等のアイヌに就て豫定の研究を行ひ所期の成績を擧げ得たるを以て本委員會は三年四月解散し一部殘存の研究及び報告の編纂は第二十六小委員會に於て之を行ふ事とせり。(本年度豫算金四、三〇〇圓)

第九小委員會(明治以降立法史料の蒐集) 設置 九、一二、二一

資料の湮滅せざる内に、公法及び私法に渉るものを調査蒐集し光輝ある當時の事蹟を永く後世に傳へ、又學理的に諸立法を研究するに資せんとするものにして既に條約方面の蒐集及び之が編纂を終へ、現行憲法制定前の憲法に關する案、意見其の他の資料の蒐集を終へ、又法典調査公民法議事速記録の編纂を了し、明治元年より條約改正に關する外交々々顛末の編纂も結了を見るに至れり。(本年度豫算金一一、五〇〇圓)

第十小委員會(宇宙線、原子核の研究) 設置 九、一、二九

宇宙線と元素の人工轉換に對し根本的綜合研究を行ふものなり、宇宙線と原子核の研究は其の研究方法に於ても將又其の理論に於ても本質的相違少きが故、兩研究を相關聯して行ひ兩者の研究成果を一層大ならしめんとする

ものにして既に幾多有益なる研究又は観測を実施せらる。(本年度配付額金六〇、〇〇〇圓)

第十一小委員會(南洋に於ける熱帯生物研究) 設置 九、一、二三

パラオ群島コロール島に研究所を設け、我國に於て業績の寥々たる熱帯生物學の研究を進めんとするものにして先づ珊瑚礁に關する研究を行ひ居れり、猶本委員會に於ては研究成績の發表及び南洋に關する科學知識普及の目的を以て昭和十三年六月以來一年三回又は四回「科學南洋」なる雜誌を發刊し居れり。(パラオ熱帯生物研究所の項参照)(本年度配付額金一九、五〇〇圓)

第十二小委員會(有機合成に關する研究) 設置 一〇、四、二五

染色工業に必要缺くべからざるのみならず、有機化學工業の中樞をなし且つ爆藥、化學兵器と密接なる關係を有する染料に關し諸重要問題、新染料の案出並に染色に關する重要事項等に對し綜合研究を行ふと共に、時局に必要なる或は事變に依り缺乏を來せる有機性工業原料の合成を速に完成し焦眉の急に應ぜんとするものにして構造不明の塗料の研究其他に於て有益なる研究を遂げたり。(本年度豫算金二六、〇〇〇圓)

舊第十二小委員會(米穀利用法の研究) 設置 九、四、九

過剰米に關する有效なる諸利用法を調査せんとするものにして、既に其の研究を終へ報告書を刊行せり。

第十三小委員會(觸媒に關する根本研究) 設置 九、四、九

近代化學工業の基礎とも云ふべき觸媒作用を理論及び實驗の兩方面より其の根本現象を探究すると共に、應用方面をも研究し以て化學工業の發達に資せんとするものにして有益なる研究者々進行の途にあり。(本年度豫算金一五、〇〇〇圓)

第十四小委員會(耐震構造に關する研究) 設置 九、四、九

耐震上及び經濟上有利なる構造を綜合的に研究し、我國に於ける本重大問題を根本的に解決せんがため、一方に於て根本問題を研究すると共に、他方に於ては學術的研究結果に基き、實地設計上の指針として耐震構造要項を編纂せんとするものにして、地震動の性質の研究其他に就て研究を進め概ね所期の目的を達し得たるが故爾來耐震構造に關する構法の標準を保合的に大成するに努めつゝあり。(本年度豫算金一二、七〇〇圓)

第十五小委員會(養蠶問題の研究) 設置 九、四、九

養蠶業全般に關する有効適切なる綜合的根本研究を行ひ、之が本邦重要産業としての地位を確保せしめんとするものにして繭、絹絲の新規用途其他に關し研究成果を擧げ居れり。(本年度豫算金八、一〇〇圓)

第十六小委員會(國民營養基準に關する研究) 設置 九、四、九

國民の諸階級殊に農民、労働者及び其の家族が、健康を保持し作業能率を發揮し得る生理的基準を、合理的方法を以て地理的季節的に調査研究し、國民保健の向上に資し、更に食糧問題及食糧動員の基礎を確立せんとするものなり。元來我國の主食たる米の營養學的觀察は極めて緊要なるに拘はらず從來之に關する系統的研究行はれざりしが故、新に米の營養學的研究を追加し之れが完成を期し、農民、都市労働者、商店員等の尿窒素排泄量より觀たる窒素消費量等の調査研究を進め之れがため有益なる結論を見るに至れるもの少なからず。

(本年度豫算金一三、〇〇〇圓 追加八、〇〇〇圓)

第十七小委員會(日本古典翻譯) 設置 九、四、九

我國古典の研究を基として翻譯し、外國に紹介せんとするものにして、第一着手として萬葉集中より一千首を選

定て之を英譯し、本年度に於て出版發行を見るに至れり。(本年度豫算金一一、五〇〇圓)

第十八小委員會 (電氣材料の研究) 設置 九、四、九

電動機刷子、内燃機の點火栓、高周波絶縁材料の如き電氣材料中重要なものにつき綜合的調査研究をなし、其の自給自足及び之が品質向上を計らんとするものにして、黒鉛化刷子試験法の標準化、黒鉛化刷子の製法改善、金屬黒鉛刷子の完成、高周波に於ける誘電體損標準試験法の制定、高周波用絶縁材料の品質向上、點火栓絶縁體の改良等は本委員會に於ける研究中、完了又は略、完了せるものに屬す。(本年度豫算金一七、五〇〇圓)

第十九小委員會 (特殊鋼材製造に關する研究) 設置 九、一〇、一五

綜合的研究調査に依り特殊鋼材缺點の原因を究め、其の防止法を見出し、國防上、經濟上の由々しき問題たる該缺點に基く特殊鋼材の廢却を除かんとするものにして、既に該缺點の原因に於ても之が防止に於ても見るべき成績を擧げ更に之が完成に向つて歩を進め居れり。是れまで得たる成果にありても平時は勿論事變下に於て裨益する所大なるものあり。

尙近時歐米に於て著しき發達を遂げたる一般構造用特殊鋼材の製造及び之が普及に關する研究は時局下の本邦に於ては資材の節減を可能ならしむる點に於て特に重要なが故本年度に於て第五分科會を設けて優秀なる構造用特殊鋼材の研究を行ひ其の一般構造物への應用及鋼材節約の積極的且恒久的方策を確立せんことを期し、鋼質がオーステナイト結晶と緊密なる關係を有するが故之が基礎的研究を行ひ、且つ高周電氣による製鋼法研究強化の爲東京芝浦電氣株式會社より曩に寄附を受けたる爐附屬裝置を使用し研究を進めつゝあり。(本年度豫算金四二、〇五〇圓、追加五、七五〇圓)

第二十小委員會 (東北地方民衣食住改善に關する研究) 設置 一〇、四、二九

東北地方民の衣食住に對し、實情に即する改善を研究決定するものにして、既に東北の農山漁村住宅に對する標準任設計圖案等を完成し尙トラコーマの豫防、乳兒保護、衣服に關しても或る種の成案を得るに至れり。(本年度豫算金二二、五〇〇圓)

第二十一小委員會 (自作農制の研究) 設置 一一、一〇、二二

自作農制に就て充分なる綜合研究を行ひ、農村重要問題を解決して、國民生活の安定を計るべき國策の樹立に資せんとするものにして研究の成果は出版刊行せらる。(本年度豫算金一〇、〇〇〇圓)

第二十二小委員會 (國民體力問題に關する研究) 設置 一一、一〇、二二

我國民の體力の向上に對し形態的本位、生理的機能並に精神的能力の三方面より根本的綜合研究を行ひ、我國民の體力の現状及特徴を明かにし、之が強化の道を極め速かに本國家重要問題の解決に資せんことを期し、曩に國民體力管理案を建議して國民體力法の制定に資し、又酒害、近眼等國民體力を阻害するもの、防止に對しても研究を進むる處ありたり。(本年度豫算金三四、〇〇〇圓)

第二十三小委員會 (小賣商問題の研究) 設置 一一、一〇、二二

小賣商問題を綜合的に研究し、之が根本對策を講ぜんとするものにして幾多の研究報告は既に出版せられ商店法、百貨店法の制定に貢獻せるもの大なるものあり。(本年度豫算金三、六〇〇圓)

第二十三小委員會 (中小工業の研究) 設置 一三、一〇、二八

我國經濟組織の顯著なる特徴の一にして、我國の生産分野、輸出分野に重要な役割を演じつゝある中小工業の

本質を明かにし、之が眞の發展並に事變時に於ける生産力擴充、軍需品の製造、輸出の増大に關する國家緊急重要問題を解決せんとするものにして研究の結果は適宜印刷公表せらる。(本年度配付額金二二、〇〇〇圓)

第二十四小委員會(鑄物製造に關する研究) 設置 一一、二一、二六

工業の基礎となる機械の重要部分に用ひる鑄物に對し、學術的研究と實地試験との綜合研究を行ひ、鑄物技術の進歩改良を計り製品の向上と廢品の防止により、良品の廉價製造を遂げんとするものにして鑄物廢品の防止に對する調査報告を始め、鑄物製造に關する各般の調査研究に従事し營業者を裨益せる處のもの少なからず。(本年度豫算金三三、五〇〇圓)

第二十五小委員會(金屬材料の疲勞に關する研究) 設置 一二、三、三一

各種機械、構造物の受くる應力と、之を構成する金屬材料の性質殊に疲勞、内部摩擦、クリーブ及各種機械、構造物の應力分布等に就て綜合研究を行ひ、一般機械及び構造物並高速運轉により振動を受け、高温に曝さるゝもの、設計に資せんとするものにして繰返試験機の性能に關する調査を進め繰返試験機主に引張壓縮試験機の具備すべき基礎條件を確かにし、航空機用の或る特殊鋼の疲勞限界が多少不揃の結果を示すことを知れる等本委員會研究成果の一、二の例に屬す。(本年度豫算金二二、〇〇〇圓)

第二十六小委員會(優生遺傳問題に關する研究) 設置 一三、四、一

日本民族素質の優秀性を保持すると共に、他面其の劣弱性を防止する爲め必要なる優生遺傳の諸問題を徹底的に研究し、我民族將來の遠大なる長計を畫策するに資せんとするものにして本委員會設置以來我邦に於ける遺傳の研究全般の領域に亘り、行はるゝに至り、廣く各方面の研究を促し、殊に精神的方面の遺傳研究は漸次成果を收

むるに至れり、昭和十四年十一月日本赤十字社等と共同主催の下に開催せる別項所報日本優生展覽會は主として本委員會の盡力に成れるものなり。(本年度豫算金一七、五〇〇圓)

第二十七小委員會(衣住問題の研究) 設置 一三、四、一

本邦は素より、隣接東亞諸國の氣候と之に對する邦人の衣服及住居の全貌に亘り、學術的綜合研究を行ひ、現在に於ける衣服及居住方法の改良是正を企ると共に、氣候と國勢とに適應したる衣住方法を立案して其の實用化を図り、之により熱帯より寒帯に亘る日本内地及東亞の各氣候地帯に居住する邦人の生活方法を合理化せしめ、以て體力の向上と國力の増進に寄與せんとするものにして、引續き調査研究を進めつゝあり。

(本年度豫算金一六、五〇〇圓)

第二十八小委員會(滿蒙支醫事衛生學的調査研究) 設置 一三、四、一

北支及滿蒙の開發及邦人の移殖に對し、該地域の千差萬別なる食品に關する營養學的研究、衣住を風土に適合せしむる衛生學的研究及風土病、結核、呼吸器病、急性傳染病等の多き不健康地に於ける保健に關する醫學衛生學的研究及び邦人移民の風土適合に關する其他の諸問題を研究し、之により之等地域に於ける衣食住及保健に對する諸施設を完備せしむるに資し、尙北支住民の勞働能力と其の特質を研究調査し互に移民の風土馴化を強化し以て我國現下の重要使命たる北支及滿蒙開發に貢獻せんとするものにして、滿洲移民の衣住問題に關する研究調査の結果同地域に於ける衣住の改善に資することを得たり。尙本委員會に於ては滿洲農業移民家屋の研究、日滿農民食の研究、北滿移民地調査、北支住民の衣食住に關する調査を續行せり。

(本年度豫算金三二、〇〇〇圓、追加四、三〇七圓)

第二十九小委員會（精密機械の綜合研究）設置 一三、六、二八

現下の生産力擴充及び軍需品製造に必要な測定及び工作用精密機械に對する基礎研究を行ひ從來輸入に仰ぎ居れる高級精密機械を我國に於て製作し、輸入防止延いては之を輸出するに至らしむるに資せんとするものなり。尙本委員會に於ては平齒車、傘齒車その他齒車の嚙合試験を容易正確に行ひ得る萬能齒車嚙合試験機の考案製作を行ひ、工作誤差に基づく齒車の傳導誤差を精密に検査し得る試験機の實用化を計り以て齒車の工作技術の進歩發展に資せんことを期し一般精密機械用材料にして調査完了のものは之れを印刷に附し、工作機械並に其の製作用計測器に關する調査も完了を見るに至れり。（本年度豫算金一九、五〇〇圓）

第三十小委員會（メタリック、パッキングの基礎研究）設置 一三、六、二八

火炮駐復座機に使用する革及び護膜パッキング類は使用中損傷し、時々補給を要するが故、メタリック、パッキング其の他の方法により之が解決を計る爲め基礎研究を行ひ以て國防上の本重要問題解決に資せんとするものにして既に相當の成績を得たり。（本年度配付額金一七、五〇〇圓）

第三十一小委員會（合成ゴムの研究）設置 一三、一〇、二八

事變下不足せるゴムの生産を充足し且つ天然ゴムを以て辨じ能はざる優秀性を要求する用途に應ずる爲め、ブタジエン系及クロールブレン系合成ゴムに就き研究し、本國家緊急問題を解決せんとするものなり。（本年度豫算金八、〇〇〇圓）

第三十二小委員會（防空科學の研究）設置 一三、一〇、二八

近代戰に於ては飛行機による都市の攻撃盛ならんとする趨勢を示せり、従つて都市は防空施設を完備するの必要

ある處木造建築物多き我國都市に對しては甚だ困難なるもの存するが故、之に就き防爆彈防毒、木造都市の防火及耐火、防空技術等の必要事項を研究せんとするものなり。（本年度豫算金三一、〇〇〇圓）

第三十三小委員會（現地構築材料の利用研究）設置 一三、一〇、二八

内地は勿論特に鮮滿北支に對し、現地材料の質と之が其の地方の氣象作用に應ずる利用法を研究し、土木建築に關する各種の施設工作物に對し現地材料を用ひ容易且つ經濟的に安全性を有する施設を行ふに資し以て現下の本重要問題を解決せんとするものなり。尙本委員會に於ては委託研究に係る一般工場又は砂粘の表面泥濘化し居るものを安定せしむる特殊セメントに就き研究を進め居れり。（本年度豫算金二六、〇〇〇圓、追加一、〇〇〇圓）

第三十四小委員會（硝子及耐火物の研究）設置 一三、一〇、二八

硝子及耐火物は學術研究、國防、産業並に國民生活に極めて必要なが故益々之を進歩せしむるを要す。我國に於ては最近之が長足の進歩を見るに至りたるも、更に大に之に關する研究に力を致し、硝子を始め各種高熱作業に必要な窯爐の製造に用ふる耐火物に就ても根本的研究を行ひ以て現在品の改良、新品の發明、用途の擴大良品の廉價製造を遂げんとするものなり。尙近年硝子質纖維物質として硝子線、硝子毛等各種のもの研究試製せられ、石棉、綿毛の代用品として耐火耐熱其他特有の諸物理的性質により諸用途を開拓しつつあるを以て此の際世界各國に於ける是等硝子質纖維に關する研究報告特許等の文献を調査蒐集し之を整理の上印刷出版し以て本邦斯界發展に供せんことを期せり。（本年度豫算金二五、二〇〇圓、追加一、七〇〇圓）

第三十五小委員會（金屬材料節約に關する研究）設置 一四、四、一

現下の我國に於て、資源の開發、生産力の擴充の必要なるは論を俟たざる處なるが、他面物資資材の不足を節約

により補ふことは極めて重要なり、特に金屬資材は電氣熔接に於ける適正なる技術と設計とに依れば、重量に於て二十五%迄の節約を遂ぐる事敢て難事にあらず、然りと雖ども今日の該熔接法は長足なる進歩の途上に在りとは云へ、振動を受くる機械及構造物並に工作要具に對しては未だ大に研究の餘地を存するが故、之等電氣熔接法を中心とする金屬資材節約の研究を遂げ、非常時局下に於ける物資問題の解決に資せんとするものなり、尙本委員會は舊第四小委員會の殘務を繼承し之が報告の編纂印刷に従事せり。

(本年度豫算金一一、〇〇〇圓 追加三、〇〇〇圓)

第三十六小委員會(ジュラルミンの改善に關する研究)設置 一四、四、一

航空機材としての「ジュラルミン」の重要性は事變時特に痛感さるゝ處なるが、之が原料地金改善の根幹をなす良否檢定法、分析法の標準化等は未だ極めて不充分なるのみならず製造に於ても改善を要するものあり。互ひに強力なるものを得る必要存するが故、檢定法、分析法等根本問題の究明を期すると共に、現在「ジュラルミン」を製造し居れる民間工場に於ける製造各工程を精細に検討して改善に資し更に進んで優秀なる超「ジュラルミン」の研究に及ばんとするものなり。(本年度豫算金一四、〇〇〇圓)

第三十七小委員會(電子顯微鏡に關する研究)設置 一四、四、一

電子幾何光學の最近の進歩は超高倍率の電子顯微鏡の實現を可能ならしめたり、該顯微鏡の出現は物理學、生物學、醫學、冶金其の他の自然科學の諸部門に於て其の研究を新なる領域に展開せしむるものなり、然るに超高倍率電子顯微鏡の設計製作に當りては種々なる技術的困難を克服するの要あるは勿論、更に進んで其の性能の向上を圖る事肝要なるが故、各方向の權威者による綜合研究を行ひ、優秀國産器の案出製作を遂げんとするものなり。

(本年度豫算金一四、〇〇〇圓)

第三十八小委員會(物價問題に關する研究)設置 一四、四、一

引續く財政の膨脹と物資の缺乏とは物價の著しき騰貴を齎すべきは言を俟たず、此の騰貴を抑制せんため種々なる方策實施されたるも、多くは應急策に過ぎずして騰勢は依然として衰るに至らず、由來本問題の恒久的解決に關しては理論的又學術的基礎の上に立ち、金融統制を強化し、經營を合理化し、所謂原價に基づく理想的價格體制を確立すること根本的必要事なるが故、専門權威者による綜合研究により之れを遂行せんとするものなり。尙戰時經濟下に於て最も緊急を要する價格統制問題に就ては曩に之れが應急對策を決定して政府に提出せる處ありしが本委員會に於ては爾來本問題の根本的解決に對し諸の研究に着手せり。

(本年度豫算金七、〇〇〇圓、追加八、〇〇〇圓)

七、研究所・試験所

(一) 災害科學研究所

○第一 部

第一部は災害に關する地球物理學的研究を行ふ部門にして部長は大阪管區氣象臺技師之を兼務し調査研究は

一、暴風の調査研究

二、地震、地變の調査研究

三、津浪、高潮、波浪の調査研究

- 四、洪水、浸水、雪害、霜害旱魃の調査研究
 - 五、降雹、落雷、火災に對する調査研究
 - 六、濃霧、煙霧、煤煙の調査研究
 - 七、噴火、降灰等火山活動に對する調査研究
 - 八、都市防空に關する氣象學的研究
 - 九、航空學的研究
 - 一〇、暴風、豪雨の豫測に對する研究
 - 一一、地震、津浪の豫防に對する研究
 - 一二、大氣の汚濁と其の太陽光に對する影響の研究
 - 一三、地盤沈下現象原因の究明
 - 一四、雷雨の豫知と雷害防止に對する研究
 - 一五、其他災害に關する地球物理學的研究
- 以上總て特に其豫知と災害防止輕減を目的とする研究を主とす。當部にて行へる研究調査の結果は談話會を開催して之を發表討論す。本年度に於ける之れが開催回数は六回、講演數十七回にして、之等は「氣象集誌」、「海と空」等に掲載發表せらる。地盤沈下測定器械を九條小公園内に於ける大阪市土木部埋設に係る二〇〇尺の鐵骨に取付け昭和十四年一月以來觀測を繼續せり。

○第二部

第二部は理工學的方面の研究を行ふ處にして廣義に於ける災害に關する理學的研究を行ふを以て目的とし従つて研究の範圍は廣汎に涉り物理學的及化學的研究を包含す、又一般材料構造物に屬するもの、災害の防止災害後の復舊、天災及人爲的災害例へば防空爆發火災等より防疫事項等に至る迄の種々の事項に關する基礎的及應用學的諸種の研究を行ふ。

本年度に於て實施せる研究の主なるものを擧ぐれば左の如し。

- (1) 金屬材料の疲勞の研究
- (2) 金屬材料破壊機構の基礎的研究
- (3) トタン板の腐蝕及び風化に關する調査、合金の熱膨脹に關する研究、鐵にニを鍍金する方法の研究
- (4) 不連續流物體の空氣抵抗と相互干涉の實驗的研究、鋸齒狀屋根を有する工場建築物の風壓分布
- (5) 熔接工學に關する諸研究
- (6) 送電用鐵塔の強度に關する研究
- (7) 耐霧碍子の研究
- (8) 塑性學的研究
- (9) 物體の抵抗に關する理論的研究、翼の特性に對する風洞壁の干涉に關する理論的研究、渦亂流に關する研究、平板の彈性振動及彈性安定の問題
- (10) 大阪市築港附近に於ける土質の膠質學的研究
- (11) 超高壓水銀燈の應用
- (12) 殺菌劑及び消毒法劑の研究

(13) 建築物の災害及災害防止に關する研究

(二) 物理探鑛試驗所 (東京地學協會内)

地球物理學的方法による探鑛及地質調査法の研究に關する舊第五特別委員會の事業を繼承し昭和十三年四月一日の設立に係り所長一名常議員三十五名(内一名所長)、研究員及副研究員十三名を置く。

昭和十四年に於ける本所事業成績の概要を表示すること左の如し

研究員名	實驗地名	地質鑛床	實驗の方法及目的	實驗の成績	探鑛實施の果
青山秀三郎 松澤武雄 共同	滿洲國ジャライノール石油徵候地	中生層中に含油層在り	昭和十三年松山研究員に依り確められたる斷層の位置方向傾斜等を更に地震探鑛法に依りて確認	目的達成、松山研究員の觀測誤りなきを確認	
	北海道國富鑛山	黒鐵鑛床	電氣探鑛法に依る新鑛體の發見	發見するに至らず	
小田二三男	岩手縣久慈鑛山	砂鐵鑛床	磁力探鑛法に依り鑛床分布測定	豫備試驗に終る	
	滿洲國楊家杖子鑛山	鉛、亞鉛及交代鑛床	電氣探鑛法に依り新鑛體の發見	豫備試驗で終る	
藤田義象	朝鮮平安北道厚昌鑛山	銅亞鉛鐵鑛を合む交代鑛床	電氣探鑛法に依る鑛床の分布測定	良果を得ず	
	岩手縣田老鑛山	含銅硫化鐵鑛床	電氣探鑛法に依る鑛床の分布測定	試驗未了	
松原厚	朝鮮襄陽鑛山	鐵鑛鑛床	磁力探鑛法に依る鑛床の分布測定	分布大體判明	探鑛中
	北海道穂別鑛山	鐵鑛鑛床	磁力探鑛法に依る鑛床の分布測定	分布大體判明	探鑛中
松山基範	臺灣金包里鑛山	含硫砒銅鐵金鑛床	電氣探鑛法に依る鑛床分布測定	多雨の爲め試驗出來ず	
	臺灣錦水鑛山	第三紀層中の石油瓦斯層	電氣探鑛法に依る鑛床分布測定	略ぼ目的を達す	
松山基範	北海道余市鑛山	黒物鑛床、合金銅鑛脈	電氣探鑛法に依る新鑛體の發見	發見するに至らず	
	滿洲國石咀子鑛山	含金銅鑛脈	電氣探鑛法に依る新鑛體の發見	今年昨年の如き好成绩を得ず	

(三) パラオ熱帯生物研究所 (Palao Tropical Biological Station) (南洋パラオ群島コロール島)

第十一小委員會(南洋に於ける熱帯生物研究)所屬の研究機關にして昭和九年八月南洋廳より敷地の貸下げを受け、創立費一五、七五二圓を以て建設に着手し、翌十年三月三十日竣工、畑井新喜司氏を所長とし同年四月一日開所、二十餘名の研究員を派遣す。従來、本邦に於ける生物學の研究は、概ね温帯範圍に限られ、熱帯動植物に關する業績の寥々たるは頗る遺憾とせられし所なり。依て南洋委任統治領内に適地をトし必要なる諸般設備を設け、熱帯生物學の研究を振興せしむるは一面に於て本邦學徒の責務を果す所以なりと同時に、他面に於ては南洋富源開發の基礎を定むる所以なり。本研究所以は右の要求に應ずる爲め設立せられたるものにして、先づ此の二方面に關する重要事項にして、又國際太平洋學術會議の重要研究項目に屬する珊瑚礁に關する生物學的研究を行ふ要あるを以て、本研究所以は其の附近に於て珊瑚の發達特に著しく、從つて研究上最適地たるコロール島をトして本所を設置せるものなり。

十四年度施行に係る研究は(一)パラオ島を中心とする南洋諸島魚類の調査、(二)白蝶貝其他水産上重要なる貝類の研究(三)パラオ島に於ける海水の理化學的調査、(四)南洋諸島産海藻の研究、(五)温帯産淡水魚類の熱帯移植の研究、(六)珊瑚蟲の生理及造礁珊瑚の生長に關する研究、(七)珊瑚礁に棲息する諸種動物の研究、(八)南洋廳委託研究に屬する(アカツオ、マグロ年齢調査、イカツオ、マグロの天然餌料調査、ウ)赤道及赤道交流に於ける浮游生物の種類及棲息量の調査等なり。

研究成績は歐文報告 Palao Tropical Biological Studies に登載せられ國際太平洋學術會議を初め諸外國研究所等に於て重要視せらる、本所は又「科學南洋」と題する冊子を年三回定時刊行し 今日まで發行せるもの第二卷第三號までなりとす。(本年度研究調査費一九、四五〇圓)

八、個人研究の援助

本會創立以來十四年度末に終る七ヶ年間に於て個人研究に對し援助を與へたる件数は合計貳千參百七拾件此の金額貳百六拾五萬圓餘即ち一人平均壹千百圓に當れり内研究を終了せるもの四百五拾七件に達せり。

援助研究事項は人文及自然科學の一般に亘り就中應用方面の問題多數にあり、研究の完成を告げたる四百五拾數件中には産業上又は國防上有益なるもの多くを占む。

十四年度前期に於ける援助件數百四十六件此の金額十七萬二千三百九十圓後期に於ける件數百三十五件此の金額十一萬九千四十九圓にして其の内譯左の如し。

註 本會創業以來援助補助を受け研究を完了せるものは其の抄録を各常置委員會別に編纂發表せらる。

○十四年度前期援助補助

1. 總 類

- 人文科學資料研究 (繼續) (八、四〇〇圓) 帝國學士院會員 松本亦太郎
- 浮游選鑽共同研究 (繼續) (一〇、〇〇〇圓) 東京帝國大學教授 佐野秀之助

軍需工業に於ける職業性疾病の原因並に豫防に關する研究 (繼續) (一、八〇〇圓)

- 日本勞働科學研究所員 勝木新次
- 日本勞働科學研究所員 阿部達馬
- 日本勞働科學研究所員 岡島暢天

滿蒙北支に於ける有害双翅類昆虫の防除に關する調査及研究 (七、〇〇〇圓)

- 東京帝國大學教授 石原忍
- 農林省農事試驗場長 安藤廣太郎
- 帝國學士院會員 瀧精一

2. 常置委員會別 第二常置委員會

- 日本初期洋畫の研究 (繼續) (一、〇〇〇圓) 帝國博物館監査官 秋山光夫
- 語音聽の心理學的研究 (繼續) (八四〇圓) 立教大學教授 結城錦一
- 臺灣高砂族服飾の研究 (繼續) (一、〇〇〇圓) 臺北帝國大學教授 移川子之藏
- 吾が國に於ける民間信仰の調査研究 (繼續) (二、〇〇〇圓) 文部省囑託 宮本延人
- 琉球を中心とする南島文化の研究 (繼續) (一、五〇〇圓) 國民精神文化研究所員 相原一郎
- 神道と佛教との交渉に關する研究 (一、二〇〇圓) 大正大學教授 河村只雄
- 有職故實―主として中世の朝廷儀式の研究 (八五〇圓) 京都帝國大學文學部講師 望月信享
- 宮座資料の整理及印刷 (八〇〇圓) 東京文理科大學助教授 出雲路通次郎
- 文科諸學(哲、史、文)の研究及び獎勵に關する調査 (一、五〇〇圓) 東京帝國大學名譽教授 肥後和男
- 東京帝國大學名譽教授 吉田熊次

東洋史の研究 (一、二〇〇圓)
支那哲學研究 (九〇〇圓)

第三常置委員會

我が國に於ける陸上交通統制問題の研究 (五〇〇圓)
日本農業技術發達史研究 (一、五〇〇圓)
日鮮經濟關係の分析——特に朝鮮に於ける工業發達の植民政策的見地よりする實證的研究 (五〇〇圓)

文部省學藝課長 本田弘人
丸龜高等女學校教諭 藤井直宏
早稻田大學東洋思想研究室 栗田直
大分高等商業學校教授 田中喜一
法政大學教授 小野武夫
和歌山高等商業學校教授 金持一郎

第四常置委員會

宇宙線及び粒子線の寫眞エマルジョンに及ぼす效果 (繼續) (四五〇圓)
阿蘇火山地盤昇降變化測定及觀測 (繼續) (二、〇〇〇圓)
地磁氣の日週變化の統計的研究 (繼續) (一、二〇〇圓)
振動方法に依る岩石の彈性學的研究 (繼續) (一、五〇〇圓)
沿岸海況の變化に關する研究 (六五〇圓)
固體內電子のエネルギー帶のX線分光學的研究 一、七〇〇圓
トーマス、フィルミダイラックの方程式の解の研究 (六六〇圓)

東京工業大學助教 竹内時男
京都帝國大學助教 佐々憲三
京都帝國大學教授 長谷川萬吉
地震研究所助手 飯田波事
九州帝國大學教授 林桂一
函館高等水産學校教授 井上直一
東京帝國大學助教 林威成
北海道帝國大學教授 梅田魁

第五常置委員會

分子狀酸素の關與する接觸反應の研究 (繼續) (七〇〇圓)
海洋に關する化學的研究 (繼續) (九〇〇圓)
多原子分子の電子構造と化學反應 (繼續) (五〇〇圓)
液體薄膜の性質に關する研究 (繼續) (一、〇〇〇圓)
有機化合物殊に不飽和化合物の種々の變化に對する受磁率大なる物質の影響 (繼續) (一、〇〇〇圓)
低溫度に於ける氣體反應の研究 (繼續) (一、〇〇〇圓)
酸化ヴァナヂウム觸媒の接觸機構の研究 (繼續) (一、〇〇〇圓)
濕度計檢定裝置並に檢定方法に關する研究 (繼續) (一、〇〇〇圓)
臺灣産蛇毒の化學的研究 (繼續) (一、五〇〇圓)
臺灣産植物タンニンの化學的研究 (繼續) (四〇〇圓)
糖類硫酸ユステルを分解する有機觸媒の研究 (繼續) (九〇〇圓)
蔬菜及果實汁の物理化學的研究 (繼續) (五〇〇圓)
爆藥の威力決定に關する研究 (三、七三〇圓)

武藏高等學校教授 玉蟲文一
京都帝國大學教授 石橋雅義
理科學研究所助手 加藤七郎
東京帝國大學教授 鯨島實三
東京帝國大學助教 漆原義之
東京帝國大學金屬材料研究所助手 神田英藏
東京工業大學教授 松井元太郎
東京工業大學教授 清浦雷作
京都帝國大學教授 龜井三郎
臺北帝國大學農林專門部教授 佐藤正一郎
臺北帝國大學農林專門部教授 平野保
臺北帝國大學農林專門部教授 瀧澤慶則
臺北帝國大學助教 大島康義
東京帝國大學理學部助教 左右田徳郎
理化學研究所囑託 内藤信次
東京帝國大學工學部講師 山家信次

電磁波吸分散に依る吸着水分形態の研究 (一、〇〇〇圓) 京都帝國大學教授 志方益三
 マス、スペクトログラフ (Mass spectrograph) による極微量物質分析の研究 (一、七〇〇圓) 京都帝國大學 上田靜男
 アカエゾ樹皮よりタンニンエキスの製法並にアカエゾタンニンは依る鞋皮製造に關する研究 (緊急) (七〇〇圓) 京都帝國大學教授 佐々木伸二
 重酸素の自然分布及び交換反應の研究 (八〇〇圓) 北海道帝國大學教授 里正義
 水性ガスの精製に關する研究 (一、〇〇〇圓) 京都帝國大學教授 喜多源逸
 インディウム及其の化合物に關する研究に從事する研究者の援助 (九〇〇圓) 京都帝國大學 舟阪渡
 氣體の膜透過に關する研究 (一、〇〇〇圓) 北海道帝國大學理學部助手 島崎英一
 日本麴菌の新菌株に依るマンニツト製造の研究 (四〇〇圓) 鳥取高等農業學校教授 大谷義夫
 アドレナリン誘導體の合成 (一、〇〇〇圓) 大阪帝國大學教授 船久保英一
 タンニン材資源に關する調査研究 (五〇〇圓) 金澤高等工業學校教授 上野嘉助
 魚油の部分的水素添加に關する研究 (五〇〇圓) 函館高等水産學校教授 高野政吉
 單寧漁網染料の代用品研究 (緊急) (二、〇〇〇圓) 農林省水産試驗場技師 右田正男
 農林省水産試驗場技師 酒井森三郎
 漁期及漁場を異にする魚數肝臟中のビタミンA含量の變化 (四〇〇圓) 函館高等水産學校教授 大島幸吉

本邦間歇泉の化學的研究 (九〇〇圓) 東京帝國大學助手 野口喜三雄
 充填塔に於ける物質移動係數に關する研究 (一、〇〇〇圓) 東京工業大學教授 内田俊一
 肥料資源に關する調査研究 (二、〇〇〇圓) 東京帝國大學名譽教授 麻生慶次郎
 綠豆の食品化學的並に工業化學的研究 (五〇〇圓) 九州帝國大學農學部助手 佐々木周郁
 羊毛脂成分の研究 (一、〇〇〇圓) 臺北帝國大學理農學部教授 野副鐵男
 光電物質の研究 (二、〇〇〇圓) 理化學研究所研究員 飯盛里安
 光電物質の研究 (二、〇〇〇圓) 東京帝國大學教授 柴田雄次郎
 光電物質の研究 (二、〇〇〇圓) 東京帝國大學教授 木村健二郎
 チーゼル燃料として完全に使用し得る大豆油及魚油等の精製法 (五〇〇圓) 東京工業試驗所技師 井上春成

第六常置委員會

關東地方南部新生代地質構造圖の製作及び其の説明書の作製出版 (繼續) (一、三〇〇圓) 地震研究所助手 大塚彌之助
 日本白亜系層序の基礎的研究 (繼續) (七五〇圓) 東京帝國大學理學部 松本達彦
 南伊豆諸島の底質及び水質の研究 (繼續) (四六〇圓) 臨海實驗所副手 尾原信彦
 中部黃海道に於ける祥原系の層序並に構造の研究 (繼續) (四〇〇圓) 京都帝國大學助教授 松下進
 本邦石炭の岩石學的研究 (繼續) (三〇〇圓) 京都帝國大學助教授 上治寅次郎
 北海道及び樺太に於ける幌内層位の研究 (繼續) (七五〇圓) 北海道帝國大學豫科教授 田上政敏
 所謂關東ローム (Lamm) 地質學上並に礦物學上の研究 (繼續) (四〇〇圓) 北海道帝國大學助教授 中尾清藏

陸水學論文集印刷費(一、五〇〇圓)
 本邦に於ける鱈釣遠洋漁業地の地理學的研究(五〇〇圓) 東北帝國大學法文學部講師 田中 館 秀 三
 本邦產含易揮發性成分礦物の研究(九〇〇圓) 北海道帝國大學教授 青 野 壽 郎
 北京及び大津都市の地理學的研究(五〇〇圓) 東京帝國大學理學部 原 田 準 平
 中部及び東北日本に於ける條理的地理學的研究(六〇〇圓) 駒澤大學教授 木 内 信 藏
 東亞新生代哺乳動物研究(八〇〇圓) 東京帝國大學理學部副手 高 井 冬 彦 二

第七常置委員會

水棲動物體表の透過性(繼續)(三〇〇圓) 東北帝國大學理學部講師 小 泉 辰 雄
 日本産程々蠅類の遺傳細胞及分類學的研究(繼續)(四五〇圓) 京都帝國大學理學部講師 藤 野 光 成
 甲殼類より得らるゝ血液凝固阻止物質に關する研究(四〇〇圓) 京都帝國大學理學部 藤 野 祐 一
 浦和高等學校講師 沼 野 井 春 雄
 函根山椒魚に於ける腦下垂體前葉ホルモン注射に依る人工生殖並に該法に依るその 長崎醫科大學教授 中 村 定 八
 生殖細胞の成熟及び受精現象の研究(三〇〇圓) 東京帝國大學理學部長 寺 澤 寬 一
 斑入遺傳子の研究特にネダカのメラの原細胞に働く三對立遺傳子(B, B', C)の活動の細胞學的研究(四五〇圓) 東京帝國大學助手(理學部) 山 本 時 男
 魚卵の電氣生理及異常滲透(六五〇圓) 京城景福公立中學校教諭 小 林 新 二 郎
 本邦の陸棲貧毛數の分類及び分布に關する研究(四〇〇圓) 北海道帝國大學助手 渡 邊 千 尙

生物學的防除に關聯せる寄生蜂の研究(四〇〇圓)

菊に關する細胞學的遺傳學的研究(繼續)(二〇〇圓) 廣島文理科大學教授 下 斗 米 直 昌
 南日本産蘭科植物の分數學的並に生態地理學的研究(繼續)(五〇〇圓) 臺北帝國大學理農學部副手 福 山 伯 明

東亞大陸に於ける森林構成要因の植物生態學的研究(繼續)(一、〇〇〇圓) 東京帝國大學理學部 高 橋 基 生

日本産サルノコシカケ科の分類學的研究(繼續)(五〇〇圓) 東京科學博物館學藝官補 今 川 基 二

臺灣産羊齒植物の分類學的地理學的研究(繼續)(五〇〇圓) 京都帝國大學院學生 田 川 基 二

性染色體の起源(繼續)(二七〇圓) 京城帝國大學豫科教授 竹 中 要 平

ユリ科及びヒガンバナ科の核遺傳學的研究(三〇〇圓) 東京帝國大學理學部 佐 藤 重 平

植物の委節的現象と郷地との關係(繼續)(三〇〇圓) 東北帝國大學院學生 中 島 庸 三

同屬植物種相互間に於ける遺傳質の比較(繼續)(三〇〇圓) 東北帝國大學助手 岡 部 作 一

植物に於ける中心體及び生毛體の研究(三〇〇圓) 徳川生物學研究所研究員 湯 淺 明

花粉母細胞の核分裂に伴ふ葯内の温度の變化に就て(四〇〇圓) 東京文理科大學教授 山 羽 儀 兵

硫黃細菌の生態學的研究(三〇〇圓) 東北帝國大學助教授 神 保 忠 男

南日本の豈科植物の分類學的研究(四〇〇圓) 東京帝國大學理學部副手 木 村 陽 二 郎

ミクロネシア日本委任統治領の顯化植物、特に草本に關する分類地理學的研究(五〇〇圓) 東京帝國大學院學生 津 山 尙 博

生體合成と呼吸の相關關係に關する研究(六〇〇圓) 東京帝國大學理學部講師 田 宮 博

第八常置委員會

「最小溶血現象」の化學的並に物理化學的研究(繼續)(五〇〇圓)

京城帝國大學教授

中村拓

錐體外路系統殊に皮質錐體外路系の研究(繼續)(六〇〇圓)

新潟醫科大學教授

平澤十

空氣イオンの醫學的研究(繼續)(二〇〇圓)

北海道帝國大學教授

井上善

臺灣蕃族の體質、人類學的研究(繼續)(二〇〇圓)

臺北帝國大學教授

金關文夫

瓦斯壞疽菌の毒素並に血清製造に關する研究(繼續)(二、〇〇〇圓)

臺北帝國大學助手

忽那將愛

東京城帝國大學教授

宮内悦藏

傳染病研究所々員

細谷省吾

北海道に於ける石器時代人の人類學的研究(繼續)(一、二〇〇圓)

北海道帝國大學教授

兒玉作左衛門

「麻疹の豫防及治療的研究」に必要な實驗動物機械器具及出張費(繼續)(一、三〇〇圓)

北海道帝國大學助教授

佐藤昌一

北里研究所病理部々長

北里研究所病理部々長

川村麟也

慶應義塾大學醫學部教授

名古屋醫科大學教授

鶴見三三

インフルエンザ病原の研究(一、〇〇〇圓)

臺北帝國大學醫學部教授

杜聰明

臺灣産蛇類の生物學的綜合研究(其の四)臺灣産蛇毒の毒物學的作用及實驗治療學的研究(一、五〇〇圓)

臺北帝國大學醫學部教授

水島治夫

南鮮地方に於ける象皮病の病原及其疫學的研究(一、〇〇〇圓)

京城帝國大學教授(衛生學)

(外教室員一同)

Tuberculalergie に於ける海胆の Cholesterin 代謝に就て(六〇〇圓)

第九常置委員會

加壓採油法の研究(緊急)(一、〇〇〇圓)

京城帝國大學教授(外科)

松井權平

渦流防止の研究(繼續)(二、八〇〇圓)

昭和醫學專門學校教授

湯淺健兒

A 金属材料の内部缺陷検出法及其應用に關する研究

東北帝國大學助教授

小田川達朗

B 辨發條其他簡單ならざる構造物の振動狀況下に於ける各部分の運動狀況の觀測及其の應用に關する研究(繼續)(九〇〇圓)

東北帝國大學金屬材料研究所助教授

小久保定次郎

「ヂーゼル」機關のビン型噴油口の研究(繼續)(八〇〇圓)

東京工業大學助教授

川田正秋

金屬固溶體に於ける重格子の生成(繼續)(一、五八〇圓)

北海道帝國大學教授

茅野誠司

坑内塵の研究(繼續)(一、五〇〇圓)

早稻田大學助教授

中野實

低級「マンガ」鐵の處理(一、〇〇〇圓)

京都帝國大學助教授

西原清廉

金屬の疲勞と内部摩擦とに關する研究(一、五〇〇圓)

旅順工科大学教授

水谷要一

各種纖維類の電媒恒數測定(五〇〇圓)

東京高等工業學校教授

長谷川一郎

歪模様による各種特殊鋼の破壊機構の研究(一、七五〇圓)

大阪帝國大學助教授

松永義明

防彈鑄鋼の研究 鐵兜用地金の研究(二、〇〇〇圓)

東北帝國大學教授

兒玉元一

國産アルミニウム地金の研究(三、五〇〇圓)

京都帝國大學教授

西村秀雄

發動機用のクランク軸々承メタルの研究(二、〇〇〇圓)

京都帝國大學教授

西原利夫

第十常置委員會

電波傳播に關する國際共同研究(繼續)(一、五〇〇圓)
學術研究會議電波研究委員會幹事

大型磁歪共振子の特性並に此れを驅動すべき電氣回路研究(一、八三〇圓)
大阪帝國大學工學部助教授

中空圓筒導管に依る超短波勢力の傳送に關する實驗的研究(一、〇〇〇圓)
早稻田大學助教授

輕重量電氣機械の研究(二、〇〇〇圓)
早稻田大學助教授

聽音器用輕合金薄板の研究(二、〇〇〇圓)(内一、〇〇〇圓は研究及助成費支辨)
理化學研究所研究員

航空研究所員
中西電氣紡織研究所長

光電式高速記錄裝置の研究(一、五〇〇圓)
京都帝國大學助教授

橋脚による河床洗掘に關する實驗的研究(繼續)(一、一〇〇圓)
京都帝國大學助教授

偏心荷重を受ける鐵筋コンクリートの強度に關する研究(繼續)(一、一〇〇圓)
京都帝國大學助教授

構桁橋梁に於ける二次應用實驗的研究(一、三〇〇圓)
京都帝國大學助教授

アイヌ建築に關する調査(五四五圓)
北海道帝國大學教授

蒙疆に於ける近代木造建築の實測(一、六五〇圓)
京都帝國大學教授

沈澱物を帶行する水を流下する各種管渠の勾配設定の限界に關する理論並に實驗的研究(八〇〇圓)
熊本高等工業學校教授

輕量材料の遮音效果に關する實驗的研究(九七五圓)
早稻田大學助教授

建築材料特に熱絶緣材料との熱傳導率の正確なる測定(一、五〇〇圓)
早稻田大學助教授

第十二常置委員會

家畜衛生學特に微生物の生産する毒物毒素の生物學的研究並に臨牀的研究に從事する研究者の援助(繼續)(八四〇圓)
東京帝國大學農學部 獸醫學科大學院學生

最近本邦の家畜間に多發する傳染性腦炎の研究特に山羊、羊及び兔の傳染性腦炎の研究(繼續)(一、〇〇〇圓)
東京帝國大學農學部助手

原料乳の統制に關する研究(繼續)(五〇〇圓)
北海道帝國大學助手

作物學領域に於ける生長ホルモンの應用に關する研究(繼續)(五〇〇圓)
臺北帝國大學助教授

土性別に最適の深耕プラウの犁體の形態に關する實驗的研究(繼續)(七〇〇圓)
北海道帝國大學助教授

加糖煉乳貯藏中に於ける濃化現象に關する研究(繼續)(七〇〇圓)
北海道帝國大學教授

土壤内通氣が桑樹根系に及ぼす影響に就ての研究(五〇〇圓)
東京高等蠶絲學校教授

家蠶の發育と Vitamin C との關係に就ての研究(五〇〇圓)上田蠶絲專門學校教授

佐々木外喜男

谷惠吉郎

青柳健次

岩片秀雄

大隅菊次郎

瀬藤象二

佐藤孝二

中西金作

石原藤次郎

棚橋諒

高橋逸夫

鷹部屋福平

川島定雄

北澤貞吉

宮部宏

五島治郎

山本脩太郎

伊藤俊夫

澁谷常紀

常松榮

宮協富

高木一三

蒲生俊興

麥類諸品種の白澁病罹病性と本病原菌の越冬に就きて(五〇〇圓)

東京帝國大學農學部 平田幸治

瓜類露菌病菌の寄生性分化と越冬(五〇〇圓)

東京帝國大學農學部 岩田吉人

馬の葉川病に關する麥角菌の研究(八〇〇圓)

盛岡高等農林學校教授 富樫浩吾

家蠶精子の授精力に關する研究(四〇〇圓)

北海道帝國大學農學部助手 大村清之助

關東地方畑地に於ける土壤水分の分布と之が土壤及び作物に及ぼす影響に關する調査(八〇〇圓)

東京農業教育專門學校教授 山本 狷吉

鵝産卵能力に關する遺傳、育種學的研究(五〇〇圓)

北海道帝國大學助教授 島倉享次郎

農作物の重要病蟲害防除方法の綜合(七、〇〇〇圓)

第十二常置委員會委員長 安藤廣太郎

緊急援助補助

本邦戰時工場經營の實證的研究(四、〇〇〇圓)

名古屋高等商業學校校長 國松 豐

名古屋高等商業學校教授 宇都宮仙太郎

名古屋高等商業學校教授 漢刈重隆

○十四年度後期援助補助

1. 總 類

人文科學資料研究(繼續)(三、〇〇〇圓)

帝國學士院會員 松本亦太郎

工業爆藥の實用に關する基礎研究(繼續)(二、五〇〇圓)

東京帝國大學工學部教授 西松 唯一郎

成層圈飛行に於ける加速度の精神機能に及ぼす影響の研究(繼續)(二、七〇〇圓)

帝大航空研究所員 漢路圓次郎

本邦都市に於ける不良住宅地區の研究特に東京市の不良住宅地について(繼續)(三、〇〇〇圓)

東京帝國大學教授 今井登志喜

軸受の綜合的研究(三、〇〇〇圓)

鐵道省工作局長 紀伊壽次

浮游選鏡共同研究の中間報告の出版費(六〇〇圓)

東大教授 佐野秀之助

2. 常置委員會別

第一常置委員會

1. 民法々典の英譯 2. 立法當時の諸資料裁判例各種統計(殊に司法統計)學說其他資料に基き主として比較法學的見地より法典の趣旨及び過去三十有餘年に涉る實際的運用の狀況を明にし且之を英文として

英譯民法典の註釋とすること(繼續)(七、七五五圓) 帝國學士院會員 山田三良

朝鮮民政資料の整理並に出版(一、八四五圓) 京城帝國大學教授 內藤吉之助

京城帝國大學教授 四方 鶴博

京都帝國大學法學部 風間 鶴壽

伊太利組合法(Diritto Corpativo)(九〇〇圓)

京都帝國大學法學部 風間 鶴壽

軍動練習の精神に及ぼす影響及びその實際教育への應用に關する研究(繼續)(一、三〇〇圓)

體育研究所技師 松井三雄

東京帝大兼京城帝大教授 小倉進平

敬語の歴史的及び方處的研究(繼續)(八〇〇圓) 廣島文理科大學教授 土井忠生

李朝家錄に含まれたる貨幣史料の檢出及び整理(六〇〇圓) 東京市板橋尋常夜學校教員 田村 專之助

宗祇を中心としたる連歌の研究(六〇〇圓) 宮城縣仙臺第一中學校教諭 星加、宗一

第三常置委員會

我が國に於ける職業紹介事業の理論的、政策的及び實證的研究(繼續)(七三七圓)

彦根高等商業學校教授

岡崎文規

我が國に於ける事務組織の實證的研究(繼續)(二、〇〇〇圓) 早稻田大學教授

長谷川安兵衛

日、滿、支物價指數の比較研究並に事變を中心とする三國物價變動の調査(一、〇七五圓)

山口高等商業學校教授

近藤 驚

國民所得の研究(一、〇〇〇圓)

東京商科大學教授

中山伊知郎

第四常置委員會

プロトンに關する研究(繼續)(二、二八〇圓)

理化學研究所研究員

杉浦義勝

降雨機巧の研究(繼續)(六〇〇圓)

中央氣象臺三島支局長兼
中央氣象臺箱根山測候所長

高橋喜彦

過去の日食計算並に日食圖作成(繼續)(六〇〇圓)

海軍 囀 託

鈴木敬信

流體渦動狀態の理論的研究及び其の星辰大氣への應用(繼續)(九〇〇圓)

京都帝國大學理學的講師

栗原道徳

砂に對する水の滲透過程に關する理論並に實驗的研究(九〇〇圓)

北海道帝國大學教授

池田芳郎

超高周波放電の分光學的研究(二、〇〇〇圓)

北海道帝國大學助教授

堀見義弘

上代に於ける皇居並に都城の遺跡研究(一、三五〇圓)

京都帝國大學講師

紫田實

マリアナ、カロリン及マーシャル群島(南洋委任統治領)の言語的研究とその資料の蒐集(九八七圓)

京都帝國大學助教授

泉井久之助

第五常置委員會

郡論並びに其應用方面に關する研究(九〇〇圓)

北海道帝國大學助教授

片山辰雄

最近發生しつつある微分幾何學の理論的研究(九〇〇圓)

東北帝國大學理學部副手

古市二郎

周代以前の金屬文化史の化學的研究(繼續)(四〇〇圓)

秋田鐵山專門學校教授

道野鶴松

酸化クロム觸媒に關する研究(繼續)(七八〇圓)

東京工業大學教授

松井元太郎

チタニウム化合物に關する研究「非金屬抵抗體並に發熱體の半工業的製造」(繼續)(六〇〇圓)

東京工業大學助手

清浦雷作

東京工業大學教授

近藤清治

東京工業大學助手

鈴木信一

臺北帝國大學教授

三宅捷

臺北帝國大學助手

林金雄

本邦の温泉及び鑛泉の微量成分(繼續)(八〇〇圓)

東京帝國大學教授

木村健二郎

果汁並に蔬菜汁の清澄に關する研究(繼續)(二〇〇圓)

千葉高等園藝學校教授

皆川豐作

滿洲産石炭の組成及重合度の研究(繼續)(一、〇〇〇圓)

旅順工科大学

多和田誠一

大環狀ケトンの研究(繼續)(三〇〇圓)

大阪帝國大學教授

上野誠一

界面動電壓の基礎的研究(繼續)(八〇〇圓)

東京工科大学教授

金丸競

製紙用サイズ代用品の研究(繼續)(八〇〇圓)

東京工業大學教授

金丸競

高溫度に於ける無機化合物の比熱の測定(繼續)(三五〇圓)

北海道帝國大學教授

柴田善一

北海道帝國大學助手

北川公

- ペクチン酸の構造研究(繼續)(四〇〇圓) 臺北帝國大學附屬農林專門部教授 大野成雄
- 毛皮獸毛の増産に關する飼料學的研究(繼續)(八〇〇圓) 北海道帝國大學助教授 白濱潔
- 石炭の粘結性と組成硫黄化合物との關係についての研究(六〇〇圓) 秋田鎮山專門學校教授 堀川秀晴
- 細菌性カロチノイド「レプロチン」に關する研究(四〇〇圓) 臺北帝國大學教授 武田德一
- 微生物によるアミール酸の分解(二〇〇圓) 東京帝國大學農學部 教授 植村定治
- 炭化水素合成のラマン効果による研究(三〇〇圓) 第一高等學校講師 長井維理
- Endocottipharaphararia (E. et II.) DAV. の生物學(二〇〇圓) 岐阜高等農林學校教授 宮路憲二
- 燐光性及び螢光性物質の光化學的研究(八三〇圓) 東京帝國大學教授 龜山直人
- 有機化合物の電解的還元反應に關する研究(五〇〇圓) 大阪府女子專門學校教授 牧島象二
- 「オゾニド」の接觸作用に關する研究(三〇〇圓) 横濱高等工業學校教授 櫻井武平
- 有機化合物の反應性とラマン効果(三〇〇圓) 横濱高等工業學校助教授 山本一文一
- カーボニル基を有する有機化合物の光化學的還元反應(三〇〇圓) 横濱高等工業學校教授 中島正己
- 九州及中國地方の温泉の化學的研究(六〇〇圓) 九州帝國大學教授 松浦新之助
- 界面の電氣的、機械的性質の測定に依る膠質學的諸現象の研究(六〇〇圓) 九州帝國大學助教授 佐々木恒孝

- 紅藻類の粘質物及び之れが分解酵素に關する化學的研究(五〇〇圓) 東京帝國大學助教授 森高次郎
- 熱帶地土壤に於ける米の收量並に品質に及ぼす石灰の影響(三〇〇圓) 臺北帝國大學教授 澁谷紀三郎
- マゲネサイト燒塊(八〇〇圓) 臺北帝國大學助教授 佐伯秀章
- 雲母合成に關する基礎的研究(八〇〇圓) 臺北帝國大學助手 鳥居清治
- 浮游選鐵法に關する有機化學的研究(六〇〇圓) 東京工業大學教授 近藤清吉
- 兵器用木材に對し湿度の影響を防ぐ塗料の研究(三、〇〇〇圓) 大阪帝國大學教授 船久保英一
- 酸素發生裝置の研究(五、〇〇〇圓) 東京工業試驗所技師 平野茂
- 第六常置委員會
- 火山地域に於ける土地利用の研究(繼續)(五〇〇圓) 東京陸軍幼年學校教授 西水孜郎
- 北海道樺太に於ける第三紀植物とその層位價値的研究(繼續)(六〇〇圓) 北海道帝國大學助教授 大石三郎
- 日本の陸水の地理學的研究(繼續)(九〇〇圓) 東京帝國大學講師 吉村信吉
- 滿洲國に於ける長棚 Palisade の實地調査及び研究(繼續)(六〇〇圓) 東京商科大學教授 佐藤弘
- 本邦油田の地質構造の研究(一、三〇〇圓) 東京帝國大學教授 上床國夫

海岸地形分類の研究(六五五圓)
臺灣に於ける地方的小都市の地理學的研究(六〇〇圓)
合稀元素鐵物の研究(一、〇〇〇圓)

陸軍豫科士官學校陸軍教授 渡邊光
臺北帝國大學助教授 富田芳郎
京都帝國大同助教授 田久保實太郎

第七常置委員會

蛙 *Oncohynduskeia* の孵化發生中に起る脂肪の物質代謝(繼續)(二〇〇圓)

函館高等水産學校教授 小林佐太郎

テントウムシを材料とする遺傳の研究(繼續)(二五〇圓)

京都帝國大學囑託 星野安香

日本産ヒイラギ科 (*Laisana thitae*) 魚類の發光に就て特に南洋産同科魚類との比較研究(繼續)(一六〇圓)

東京慈惠會醫科大學講師 羽根太彌

本邦産淡水魚類の研究(繼續)(三〇〇圓)

東京高等師範學校教授 岡田彌一

九州産スクテラ科海膽類の分布と生態(二五〇圓)

九州帝國大學助手 池田隼人

兩棲類を材料とする發生に關する實驗的研究(三〇〇圓)

京都帝國大學教授 岡田要人

京都帝國大學助手 高谷博

京都帝國大學々々生 中村治

東北帝國大學助教授 元村勳

東北帝國大學助手 加藤陸奥雄

ウニの卵に於ける卵割機構の研究(三五〇圓)
昆蟲の活動と其の環境條件とに關する研究(三五〇圓)
棘皮動物卵生の發生々々理學的研究(五〇〇圓) 1. ウニ類卵子に於ける細胞分裂に伴ふ新細胞膜形成に關する研究 2. コマチの卵子の成熟現象及び其の初期發生の研究

東京帝國大學理學部助手 團勝磨

東京帝國大學助教授 竹脇潔

爬蟲類に於ける内分泌線の研究(繼續)(四五〇圓)

高等植物に於ける雄性配偶體の研究(繼續)(三五〇圓)
ホンダハラ類及びヒジキ類の受精に關する研究(四〇〇圓)
通發作用の研究(五〇〇圓)

東京帝國大學院學生 八田享二

東京文理科大學 吹田信英

植物學教室助手 國枝

東京帝國大學助教授 芦田讓

京都帝國大學講師 鈴木時夫

臺北帝國大學理農學部助手 木村有香

東北帝國大學助教授 八幡一郎

東京帝大理學部講師 八幡一郎

史前南洋群島人の研究(六〇〇圓)

東京帝國大學教授 柿内三郎

有毒瓦斯の檢出法(繼續)(二、〇〇〇圓)

東京帝國大學教授 清水榮

膽汁酸より性ホルモンの製出及びステリン體殊にビタミンD及びエルゴステリンの生化學的研究(繼續)(一、四九五圓)

岡山醫科大學教授 清木多榮

滿洲に於ける冬期の寒氣に對する人體の適應力に關する研究(繼續)(一、〇〇〇圓)

京都帝國大學教授 正路倫之助

實驗的發痛並に其過程の研究(繼續)(一、〇〇〇圓)

大阪帝國大學助教授 木山下龍德

溶血性連鎖狀球菌の分類及びその疾病の原因的意義に關する研究(一、〇〇〇圓)

慶應義塾大學教授 小林立六造

蛋白質の構造(一、〇〇〇圓)

日本大學醫學科教授 志林賀直造

未循環系の研究(一、五〇〇圓)

京都帝國大學教授 直下俊一

産業中毒特に内燃機關用對爆劑に因る中毒の豫防及び治療に關する研究(一、〇〇〇圓)

公衆衛生院教授 赤塚京治

朝鮮各地に於ける絲狀菌病々原菌に關する研究(七〇〇圓) 京城帝國大學教授 北村精一
本邦女子社會公衆衛生に關する研究(一、〇〇〇圓) 東京帝國大學教授 白木正博

抗原抗體反應の諸相の基礎的研究(八〇〇圓) 東京帝國大學助教 緒方富雄

第九常置委員會

推進器翼型キャビテーションの研究(續)(一、〇〇〇圓) 東北帝國大學教授 沼和福三郎

アルミニウム中のガリウムの研究(續)(五〇〇圓) 京都帝國大學助教 原田隆康

高速度重荷重用カドミウム基軸合金の物理冶金學的研究(續)(八〇〇圓) 東北帝國大學助教 佐藤知雄

疲勞試験に際して發生する變形の研究(六〇〇圓) 東北帝國大學助教 市原通敏

X線に依る輕合金疲勞現象の研究(八〇〇圓) 大阪帝國大學助教 篠田軍治

燃焼瓦斯及び空氣の全熱量エントロピ線圖の使用に依る航空發動機の地上ブースト壓力に依る出力増加と過給機の驅動馬力との關係の熱力學的研究(四〇〇圓) 東京帝國大學教授 田中敬吉

鋼材の光輝燒鈍に關する研究(一、〇〇〇圓) 航空研究所囑託 粟野誠一

鑿岩機及ハンマーピツクの性能と潤滑油の關係に就ての實驗的研究(八〇〇圓) 東京工業大學助教 河上益夫

ボツジユ型燃料ポンプに於ける壓力波作用の理論的及び實驗的研究の完成(一、〇〇〇圓) 北海道帝國大學教授 三浦勝

早稻田大學教授 難波正人

早稻田大學教授 米澤治太郎

北海道帝國大學教授 鳥山四男

大阪帝國大學助教 菅英治

東北帝國大學助教 福島弘毅

東北帝國大學助教 岡田幸雄

大阪帝國大學教授 熊谷三郎

東北帝國大學附屬 實吉純一郎

東北帝國大學工學部助教 神谷六郎

廣島高等工業學校教授 園田忍

廣島高等工業學校教授 森本清吾

廣島高等工業學校教授 伊藤藤誠

九州帝國大學教授 三瀬幸三郎

九州帝國大學助教 篠原謹明

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

第十常置委員會

電氣的除塵の研究(續)(一、二三〇圓) 北海道帝國大學教授 鳥山四男

電子レンズ系の實驗的研究(高加速電壓陰極線に對する電子レンズ系)(續)(二、二六〇圓) 大阪帝國大學助教 菅英治

磁心材料の研究(續)(八〇〇圓) 東北帝國大學助教 福島弘毅

無歪増幅器(續)(七五〇圓) 東北帝國大學助教 岡田幸雄

東洋産動植物油脂の電氣絕緣特性に關する研究(八〇〇圓) 大阪帝國大學教授 熊谷三郎

超音波による魚群搜索法に關する研究(五〇〇圓) 東北帝國大學附屬 實吉純一郎

定位相差分波器の研究(六〇〇圓) 東北帝國大學工學部助教 神谷六郎

電磁喇叭並に導波管の研究(一、〇〇〇圓) 廣島高等工業學校教授 園田忍

廣島高等工業學校教授 森本清吾

廣島高等工業學校教授 伊藤藤誠

九州帝國大學教授 三瀬幸三郎

九州帝國大學助教 篠原謹明

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

熊本高等工業學校教授 吉田彌七

積雪地方建築物の屋上積雪防禦に関する研究 (六〇〇圓) 早稻田大學講師 木村幸一郎
 立體角投影寫影機の研究 (一、〇〇〇圓) 名古屋高等工業學校教授 渡邊美要
 コンクリートの急結工法に関する研究 (一、〇〇〇圓) 東京工業大學助手 神谷大
 鐵筋コンクリート構造に於ける剪斷補強に関する研究 (四五〇圓) 東京工業大學助教 二見秀雄
 竹材の腐朽と其の防止に関する研究 (四〇〇圓) 早稻田大學助教 十代田三郎

第十二常置委員會

植物ヴァイラス病に関する研究 (特に第一次傳染病源の除去に關して) (繼續) (五〇〇圓) 高崎高等農林學校教授 日野巖
 農産物の組合的販賣に関する費用の研究 (繼續) (五〇〇圓) 宇都宮高等農林學校教授 大川一司
 蓮根の栽培に関する研究 (繼續) (五〇〇圓) 東京市淀橋區上落合一ノ四六八 大賀一郎
 熱帯氣候の馬體に及ぼす影響に関する研究 (繼續) (二、〇〇〇圓) 臺灣總督府農業試驗所 葛野淺太郎
 恒春畜産試驗所技師 館澤圓之助
 北日本森林の生産力増進に関する研究 (繼續) (五〇〇圓) 東京帝國大學助教 嶺一三
 鹹水産有用水族の人工増殖法の基礎研究 第1. 鮑稚貝飼育と放養に関する研究 (繼續) (一、〇〇〇圓) 函館高等水産學校教授 村山三郎
 螟虫卵寄生蜂ズイムシアカタマゴバチ (Trichogramma japonica) に関する調査並に研究
 1. 三化螟虫卵に対するズイムシアカタマゴバチの寄生率調査 2. ズイムシアカタマゴバチの系

統に関する調査 (繼續) (五〇〇圓) 鹿兒島高等農林學校教授 澁谷正健
 本邦産毛皮及毛皮動物の研究 (繼續) (八〇〇圓) 北海道帝國大學教授 犬飼哲夫
 米の品種と搗精法の相違による胚芽殘存率に関する研究 (五〇〇圓) 九州帝國大學助教 森川周彦
 果樹栽培の立地的研究 (五〇〇圓) 千葉高等園藝學校教授 石川武彦
 臺灣及南支の蔬菜栽培に就いて特にその高温の影響の調査研究 (五〇〇圓) 臺北帝國大學附屬農林專門部教授 志佐誠
 農業水利と治水との交渉に関する研究 (五〇〇圓) 東京帝國大學助教 野間海造
 本邦に多發する綿羊並に山羊の原因不明神經性疾患の原因學的並に病理解剖學的研究 (六二〇圓) 東京帝國大學 傳染病研究所技師 山極三郎
 トドマツ造林の凍害と対策 (五〇〇圓) 北海道帝國大學助教 今田敬一郎
 農業發達史の研究 (一、五〇〇圓) 貴族院議員 稻田昌植
 滿洲國所産寄生菌類特に銹菌類に関する研究調査 (八〇〇圓) 鳥取高等農業學校教授 平家直秀

九、受託研究事項

近年本會に於ける研究の狀態、業績等漸く一般に認識せられ他より研究の委託を希望するもの之れあるにより本會は去る昭和十二年十一月之れ等調査研究又は試験の委託ありたる場合之に應ずるの途を開きたり、本年度に於ける受託研究は航空燃料、無線裝置、氣球繫留素、特殊鑄鋼、メタリックパッキング、土場安定用セメント、光電物質、大豆

油精製法、國産アルミニウム地金、發動機用クランク軸、輕重量電氣機械、聽音器用輕合金薄板光電式高速記錄裝置等にして夫々關係特別又は小委員會又は當該專門學者に附託し研究に當らしめ居れり。本年度委託研究費總額金貳萬四千五百圓なり。

十、用途指定寄附金による研究事項

用途指定寄附金は逐年増加の趨勢にあり、是れ等寄附金は夫々關係委員會等に配付し研究の資に供せり、委員會に於ける研究狀況は別項略述せるが如し。

濱田 端氏

皇恩奉謝記念として昭和八年金參千圓を寄附せられより生ずる利子を以て一般研究費に使用方を指定せられたるものにして本年度利子金百貳拾圓は之を第二常置委員會（哲學、史學、文學）に配付し研究の資となせり。

理研金屬株式會社（舊名日滿マグネシウム株式會社）

マグネシウム合金防銹法研究に使用するため昭和八年以降昭和十三年迄毎年金六百圓づゝ合計參千圓を寄附せられたるものなり。内研究用として使用濟額金貳千七百圓なり。

日本電氣株式會社

電氣通信研究に使用する爲め昭和九年以降同十三年まで五箇年間毎年金參千圓づゝ合計金壹萬五千圓を寄附せられたる處昭和十四年四月更に金壹萬五千圓を寄附せられ本年度に於ては内金貳千圓を第一小委員會（無線裝置の研究）に配付し研究を續行せり。

南滿洲鐵道株式會社

滿蒙産業の學術的研究並之が實用化の研究費に充つる爲め昭和八年以降同十二年まで毎年五萬圓づゝ合計金貳拾五萬圓を寄附せられたるものにして本年度に於ては内金五萬六千九百四拾圓を第二特別（滿蒙及び支那經濟問題の研究）第六特別（植物纖維原料の調査研究）、第二小（本邦及滿洲金屬鑛床の研究）、第二十八小（北支及滿蒙開發に必要なる醫事衛生學的調査研究）の各委員會及第五、第七、第十二の各關係常置委員會に配當し夫々研究に従事せり。

日本生命保險株式會社

昭和九年金拾萬圓を寄附せられ之れより生ずる利子を以て戰時に於ける保健に對する研究特に化學兵器劑の氣中並に水中微量檢出法の研究、外に之に對する都市防禦方法の研究助成費に充當すべき旨指定せられたるものに係り本年度に於ては該利子金四千圓を第十六小委員會（國民營養基準）第八常置委員會（醫學、衛生學）に配付し研究の資となせり。

滿洲化學工業株式會社

高壓工業研究として昭和九年以降毎月金壹千圓づゝ合計金五千圓を寄附せられるものにして本年度に於ては内金參千圓を第七特別委員會（航空燃料に關する研究）に配當し研究を實施せり。

本溪湖煤鐵公司

昭和九年八月本會基金の内、金壹萬圓を寄附せられ之れより生ずる利子を以て主として鐵鋼に關する研究を指定せられたるものにして本年度に於ては金八百圓を第十九小委員會（特殊鋼材）に配付し研究の資となせり。

滿洲電業株式會社

電氣關係の研究に充當する爲め昭和九年以降毎年金壹千圓づゝ合計金五千圓を寄附せられたるものにして本年度に於ては内金壹千圓を第九特別委員會に配付し研究を進めつゝあり。

日本特殊鋼合資會社

特殊鋼研究に使用する爲め昭和十年五月金五千圓を寄附せられたるものにして第十九小委員會(特殊鋼材製造に關する研究)に於て之が研究に當れり之が成果は結局廢却原因たる缺點の防止を可能ならしめ、優良鋼材の製造に最大の寄與をなすに至れり。

日本染料製造株式會社

昭和八年寄附申込に係る總額金參萬圓の内昭和十二年度分割拂込金五千圓並に昭和十三年八月別に金三千圓を寄附せられ、之を以て染料研究に使用方を指定せられたるものにして本年度に於ては使用殘額金四千五百圓を第十二小委員會(有機合成に關する研究)に配付し之れが研究を續行せり。本研究により研究せられたるものゝ内にヘリンドンカーキC、ヘリンドンブラウンC、D等あり。

神戸製鋼所

寄附申込總額金五千圓の内昭和十二年度以降拂込に係る金四千圓は製鋼研究費に充當すべき様指定せられ本年度に於ては第十九小委員會(特殊鋼材製造に關する研究及第十特別委員會)に各金壹千圓宛を配付し研究の資となせり。

日本製鋼所

昭和十一年より十六年まで毎年金貳千圓づゝ合計金壹萬圓を寄附せられ鋼の研究に充當すべき様指定せらる、本年度に於ては内金貳千圓を第十九小委員會に(特殊鋼材製造に關する研究)配附研究を進めたり。

日本製鐵株式會社

鋼鐵及之れに關聯する研究に充當する爲め昭和十一年より十六年まで毎年金壹萬圓づゝ合計金五萬圓を寄附せられたるものにして本年度に於ては殘額金壹萬七千五百圓を第十九小委員會(特殊鋼材製造に關する研究)及第二十四小委員會(鑄物製造に關する研究)に配付し研究に従事せり。

匿名會社

無線研究の爲め昭和十二年度に於て金五千圓の寄附を受け、曩に第一小委員會(無線装置の研究)に於て研究に従事せり。

東京芝浦電氣株式會社(舊稱東京電氣株式會社)

電氣研究のため昭和十二年度以降毎年四千圓づゝ合計金貳萬圓の寄附申込あり本年度に於ては内金四千圓を第九特別委員會(空中電氣の研究)に配付し研究を進めつゝあり。

日本曹達株式會社

觸媒研究費に充當する爲め昭和十二年度に於て金參千圓を寄附せられたるものにして、本年度に於ては殘額金壹千圓を第十三小委員會(觸媒に關する根本研究)に配付し研究を進めた。

倉敷紡績株式會社

倉敷絹織株式會社

本會國民體力問題考查委員會衣住委員會調査研究費に充當する爲め昭和十二年度に於て金貳萬圓を寄附せられ本年度に於ては學術部關係として金五千八百圓を第二十七小委員會(衣住問題の研究)に配當し研究の資となせり。

國際電氣通信株式會社

無線電信研究の爲め昭和十二年度以降毎年五千圓づゝ合計金貳萬五千圓を寄附せられ本年度に於ては内金參千圓を第一小委員會（無線装置の研究）に配付し研究に従事せり。

石油諸會社

航空燃料研究の爲め昭和十二年度に於て日本石油株式會社六社より合計金六萬參千五百拾六圓又昭和十三年度に於て更に滿洲石油株式會社外八社より合計金六萬圓の追加寄附あり、本會に於ては昭和十二年十月第七特別委員會（航空燃料に関する研究）を設置して研究を進め本年度に於ては内金五萬貳千百拾六圓を同委員會研究資料として配付せり。

日本放送協會

無線通信研究のため昭和十三年より同十七年まで毎年五千圓づゝ合計金貳萬五千圓を寄附せられ本年度に於ては第一小委員會（無線装置の研究）及第十常置委員會（應用電氣學、電氣工業）に配當し各研究に従事せり。

昭和製鋼所

鐵鋼に関する研究に充當する爲め昭和十三年度以降毎年金四千圓づゝ合計金貳萬圓又製鋼に関する研究費として昭和十四年一月金五千圓を寄附せられたるものにて本年度に於ては金壹萬五百拾圓を第十九小委員會（特殊鋼材製造に関する研究）及第十特別委員會へ配付し研究の資となせり。

三井報恩會

昭和十三年中無線装置に関する研究費として金貳萬圓、特殊鋼材製造の改善に関する研究費として金貳萬圓及び鑄

物改善に関する研究費として金壹萬圓合計金五萬圓の寄附ありたる外更に十四年度に於て元素の人工轉換に関する研究費として金壹萬圓、合成ゴムに関する研究費として金壹萬五千圓、硝子及耐火物に関する研究費として金壹萬五千圓、植物纖維原料に関する研究費として金壹萬圓合計金五萬圓を寄附せられたるものにして本年度に於ては内金五萬壹千圓を第十小委員會（宇宙線、原子核の研究）、第十九小委員會（特殊鋼材製造に関する研究）、第二十四小委員會（鑄物製造に関する研究）、第三十一小委員會（合成ゴムの研究）、第三十四小委員會（硝子及耐火物に関する研究）及第六特別委員會（植物纖維原料の調査研究）に配付し夫々綜合研究を進め居れり。

三井鑛山株式會社

染料研究費として昭和十二年度以降毎年金壹千圓づゝ合計金參千圓外に昭和十三年十二月金一千五百圓を寄附せられ本年度に於ては内金五百圓を第十二小委員會（有機合成に関する研究）に配付し引續き研究中に屬す。

東京電氣無線株式會社

昭和十三年本會第十小委員會大サイクロトン建設費として金壹萬圓の寄附ありたるにより同委員會に於て建設に着手せり。

滿洲石油株式會社

昭和十三年六月航空ガソリン研究費として金壹萬圓を寄附せられ、本年度に於ては之を以て第七特別委員會（航空燃料）研究の資となせり。

日本カーボン株式會社

昭和十四年一月電機用刷子研究費に充つるため金壹萬五千圓を寄附せられたるものにして本年度に於ては内金參千

圓を以て第十八小委員會の研究費に充當せり。

日本塗紙工業株式会社

アスファルト類及塗料に関する研究費に充當すため昭和十三年より五回に分ち計金五千圓を寄附せられたるものなり。

大同製鋼株式会社

昭和十四年二月特殊鋼研究のため金五千圓を寄附せられたるものにして本年度に於ては第十九小委員會(特殊鋼材の研究)に内金貳千八百四拾圓を配當し研究を行へり。

山本敬藏氏

獨逸に於ける優良品を倣する装置、機械、器具の何れかを案出することを目的とする研究費として昭和十四年四月金壹萬參拾參圓八拾八錢を寄附せられたるものにして本年度に於ては金壹千圓を第二十九小委員會(精密機械)に配當し研究の資に充てたり。

帝國人造絹絲株式会社

昭和十四年五月植物纖維原料調査研究費に充つるため金五千圓を寄附せらる。

東洋レーヨン株式会社

昭和十四年五月纖維原料調査費に充つるため金五千圓を寄附せらる。

藤倉工業株式会社

昭和十四年五月毒瓦斯に關係ある研究調査費として金參千圓を寄附せらる。

日本鋼管株式会社

昭和十四年五月特殊鋼製造研究費として金參萬圓を寄附せられたるものにして本年度に於ては第十九小委員會(特殊鋼材研究)及第十特別委員會(特別用途鋼)に金五千百圓を振り當て研究に従事せり。

石原宗助記念資金

故石原宗助氏遺言により昭和十四年九月金四萬圓を本會基金中に寄附せられたるものにして本會に於ては指定に基き之より生ずる利子を以て研究に関する調査費に充當することとせり。

日立製作所

昭和十四年十一月電氣材料の研究費に充つるため金貳萬圓を寄附せらる。

十一、滿洲及朝鮮委員會

(一) 滿洲委員會

昭和十四年五月十一日午後新京中銀クラブに於て滿洲委員會を開催し本會より波多野理事參列し種々協議する處ありたり。

(二) 朝鮮委員會

昭和十四年五月一日及十一月二十八日京城に於て委員會を開催し、尙十四年度第一回講演會を四月三十日午後七時三十分より京城府遞信事業會館に於て開催し「産業の振興と學術の振興」と題する波多野理事の講演、又第二回講演會を十一月二十九日午後六時三十分より京城府民館に開會し速水委員長の「日本學術振興會の事業」、藤塚京城大學

教授の「儒道精神」、井口委員の「低溫に於ける木材の機械的性質」と題する講演を爲し、終りて科學映畫數種を上映せるが、聽講者約一千三百名の多きに達せり。

十一、國民體力問題考查委員會

前年に引續き關係諸般の調査研究に當り内優生委員會の提案に係る醫育機關に民族衛生學講座設置に關する件並に食糧委員會の提案に係る食糧政策に關する綜合的中央企畫機關の設置に關する件は理事會の議を経たる後夫々政府當局へ建議せり。

十二、講演會

本期間施行せる講演會の主なるもの左の如し

- (1) 昭和十四年十一月十二日金屬材料節約第三十五小委員會は銲接協會と共同し、帝國鐵道協會に於て聯合講演會を開催し本會側より左記委員の講演ありたり。
 フラッシ、バット銲接に就て 横田清義
 赤崎式電孤銲接方法の應用 赤崎繁
 銲接標準試験片に就て 鶴田明
- (2) 昭和十四年十一月三十日電氣材料研究第十八小委員會は電氣通信學會、電氣學會東京支部と共同主催の下に電氣俱樂部に於て聯合講演會を開催し左記本會委員の講演あり。

高周波誘導體損の測定

西 健
阪 本 捷 之
田 崎 三 郎

- (3) 昭和十五年一月十六日上野精養軒に於ける本會第八回委員總會終了後左の研究報告講演あり。

パラオ熱帯生物研究所及びその事業に就て

パラオ熱帯生物研究所長 畑 井 新 喜 司
養蠶問題研究第十五小委員會委員長 平 塚 英 吉

- (4) 昭和十五年二月二十七日日本會は日本機械學會、火兵學會、精機協會と共同主催の下に帝國鐵道協會に於て聯合講演會を開催し左記本會委員の講演ありたり。

日本學術振興會に於ける磨耗の機構の研究の經過(第二報)
 引掻き磨耗の機構 朝 倉 希 一
 表面凸起が中間に粒子を介して咬合ふ場合の咬食破壊現象と 眞 島 正 市
 磨耗現象との類似性 大 越 諄
 鋼の磨耗に及ぼすガス體の影響 齋 藤 省 三
 磨耗面の電子廻折法による研究 飯 高 一 郎

十四、一般會務

(一) 政府補助金

昭和十四年度政府補助金壹百萬圓は之を三回に分ち文部省より受領せり。尙、事變及時局緊急問題の研究増加に伴ひ現在の資金を以てしては甚だ不十分なるを以て昭和十五年度政府補助金増額方につき十四年六月十五日政府へ稟請する所ありたり。

(二) 理事會議事要項

昭和十四年四月以降七、八兩月を除き毎月一回定例理事會を開催し、昭和十三年度歳入歳出決算、昭和十五年度歳入歳出豫算、特別及小委員會の設置、個人研究の援助補助並官廳委託研究事項、諸建議事項、諸規程の改變並に役員、委員の委嘱事項等を附議決定せり。

(三) 評議員會議事要項

昭和十五年三月二十九日第八回通常評議員會を開催、監事推薦、昭和十三年度歳入歳出決算の件等を付議可決せり。

(四) 諸規程中改變

- (イ) 處務規程中改正

處務規程第十二條中書記五級以上並書記補の俸給定額を改正し尙同規程中主として學術部關係條項を改正し、同第四條に於て學術部次長を新置し常務擔任理事を以て之に充つることとし、又其の六條を改正して學術部に常務課、企劃課及研究課の三課を置き課長には主事を以て充つることとせり。
- (ロ) 學術部規程中改正

學術部規程中第六條(常務科に關する事項)を削除し同規程中「常務科主任」を「學術部次長」に改む。尙本會の重大任務に屬する新研究促進の目的を以て同規程第二章第七條を改正し學術部常置委員會の事業を「研究

の企劃及實施を審議する機關となし、同第八條中商業學を經營學に改めたり。

(ハ) 援助補助規程改正

主として特別及小委員會委員及研究者の研究費援助に關する事項並に一般研究者の援助補助に對し收支の整理を簡略化し研究者をして不便なく研究に従事せしめ得る様適當なる改正を加へたり。

(ニ) 災害科學研究所規程中改正

官制改正の結果「中央氣象臺大阪支臺」は「大阪管區氣象臺」と改稱せられたるにより災害科學研究所規程第四章第十八條中「中央氣象臺大阪支臺長」とあるを「大阪管區氣象臺技師」と改正せり。

(五) 晩餐會

十四年度本會定例評議員會は總裁 秩父宮殿下の臺臨を仰ぎ十五年三月二十九日華族會館に於て盛大に舉行せられたり。

畏くも 殿下には同日午後六時御着館、近衛會長の御先導にて貴賓室に入らせられ、引續き來會者一同に謁を賜はりたる後展覽室にて生絲の新用途、當麻寺所藏本曼荼羅の研究、並災害科學研究所圖表等に關する説明を聽こし召され、次で食堂に成らせられ、こゝにて松浦文部大臣、畑陸軍大臣等來賓の本會關係者約二百五十名に陪食の榮を賜はり、宴後別室にて御歡談あらせられたる後、八時半過ぎ御機嫌麗はしく御歸還遊ばされたり。

(六) 民族優生展覽會

本會は日本精神衛生協會及日本赤十字社と共同し昭和十四年十一月三日より同十二月三日迄赤十字博物館に於て民族優生展覽會を開催し民族優化に關する資料を蒐集陳列し併せて優生相談、性能検査及び専門家の講演等を行ひ以

て世人の優生思想を啓發し國運の發展に寄與せんことを努めたる處十一月十五日の赤十字條約成立七十五周年記念日には内閣諸大臣及各國使臣等參觀し又同月二十日畏くも 皇后陛下には日本赤十字社篤志看護婦人會創立五十周年記念式典台臨の後約三十分互り隈なく展覽品を台覽あらせられ、同時閑院宮殿下を始め奉り畑陸軍、吉田海軍、小原内務兼厚生各大臣扈從あらせられたり。會期中を通じ入場者の總數三萬二千八百三十二人此の開館一日平均一千百三十三人の盛況を示せり。

(七) 會計監査

會計事務の絶對正確を期する爲計理士に委嘱し本年度の會計狀態を監査せしむることとし客年十二月より之を開始し年度の決算前に終了の見込なり。

(八) 事務所移轉

豫て新築中なりし本會事務所落成せしに付昭和十四年十月十六日を以て從來借用の文部省建物より移轉せり。本事務所は文部省本館西南に在る舊試験場に接續する木造二階建にして、延坪百四十五坪三合七勺餘を有し、二階は主として學術部に、一階は總務部に充て、地下室は本會發行印刷物其他諸雜品の保藏に充つ。

(九) 刊行物

學術研究の獎勵普及紹介並本會事業の紹介等を目的とせる雜誌「學術振興」は其の後引續き隔月發行し、又技術家、設計家、發明家の參考として翻譯出版し來れる「外國特許」は十四年八月以來電氣、金屬材料、化學關係及精密機械、航空機、纖維加工關係の二類に分ち毎月二回交互大阪國際特許發明社をして發行せしめ來りたるが都合により來る四月以降右各種一括東京養賢堂より年四期に分ち發行せしむることとせり。

十四年度に於て新に發行せる「外國研究所要覽」は英國の部(第八卷)及米國の部(第九卷)の二部にして、「全國試験研究調査機關要覽」中第三編工業編は需要多く久しく缺本なりしが今般改正増補の上目下再版上梓中に屬す。又學術部第四小委員會は電氣熔接に關する研究第九乃至第十二號を發行し、金屬木材等腐蝕防止方法に關する第五小委員會は第十三號乃至第十五號に至る研究報告を、染料研究の第十二小委員會は各種染料品位檢定法第十七號乃至第十九號を、特殊鋼材製造第十九小委員會は其の研究報告第八號を、自作農研究第二十一小委員會は「時局と農村」第三卷、農地問題の研究外二冊を、小賣商問題研究の舊第二十三小委員會は小賣商廉賣問題及公私小賣市場の研究を夫々發表し、鑄物研究第二十四小委員會は電氣爐鑄鐵の研究及鑄物に關する外國文獻集を各第八號及第九號として刊行、合成ゴム研究の第三十一小委員會は合成ゴム文獻集二輯を、第三十八小委員會は物價問題の應急策を何れも刊行發表せり、尙第十一小委員會所屬パラオ熱帶生物研究所は本年度に於て英文研究報告第四號の外「科學南洋」を引續き發行し居れり。

(十) 寄附者表彰

本會へ金品を寄附せられたる左記諸氏に對し本期間に於て各頭書の通り夫々表彰せられたり。

日	附	褒賞種類	寄附金	寄附者
昭和十四年五月二十二日	同	褒	金五千元	日本特殊鋼株式會社
同十五年三月二十三日	同	紺綬褒章飾版	金壹萬圓	東京電氣株式會社
			金壹萬五千圓	植村澄三郎

十五、役員異動

昭和十四年四月一日以降本年三月廿九日に至る役員の異動左の如し。

理事

昭和一四、四、一九	辭任	前陸軍技術本部長	久村種樹
同 四、二六	委囑	陸軍技術本部長	多田禮吉
同 九、三〇	辭任	前文部次官	石黒英彦
同 一〇、六	委囑	文部次官	大村清一
同 九、三〇	辭任	前文部省専門學務局長	山川鯉
同 一〇、六	委囑	文部省専門學務局長	關口鯉
同 九、三〇	辭任	前海軍艦政本部長	鹽澤幸一
同 一〇、六	委囑	海軍艦政本部長	豊田貞次郎
同 一一、八	辭任	前商工次官	村瀬直
同 一一、一五	委囑	商工次官	岸信介
同 一一、一五	辭任	前海軍艦政本部長	豊田貞次郎
同 一二、一五	委囑	海軍艦政本部長	豊田副武
同 一二、一五	委囑	興亞院技術部長	宮本武之輔

評議員

昭和一五、一、二七	辭任	前文部次官	大村清一
同 二、二二	委囑	文部次官	赤間信義
昭和一四、四、六	辭任	前陸軍技術本部長	久村種樹
同 四、二六	委囑	陸軍科學研究所長	尾藤加勢
同 四、六	辭任	前陸地測量部長	野口正義
同 四、二六	委囑	陸地測量部長	中島三栖雄
同 四、二九	辭任	前遞信次官	小野猛
同 五、三	委囑	遞信次官	大和田梯
同 五、二九	辭任	前拓務次官	荻原彦三
同 六、五	委囑	拓務次官	田中武雄
同 九、五	逝去	前株式會社三菱社總理事	串田萬藏
同 九、一九	辭任	前海軍次官	山本五十
同 一〇、二	委囑	海軍次官	住山徳太郎
同 九、一九	辭任	前大藏次官	石渡莊太郎
同 一〇、二	委囑	大藏次官	大野龍太
同 九、一九	辭任	前內務次官	館哲二

同	一〇、二	委	內務次官	大	達	茂
同	九、一九	辭	前厚生次官	廣	瀨	久
同	一〇、二	委	厚生次官	岡	田	文
同	九、一九	辭	前海軍省軍務局長	氏	家	長
同	一〇、二	委	海軍省軍務局長	御	宿	好
同	九、一九	辭	前農林次官	小	平	權
同	一〇、二	委	農林次官	荷	見	安
同	九、一九	辭	前特許局長	石	井	銀
同	一〇、二	委	特許局長	大	貝	晴
同	九、一九	辭	前南滿洲鐵道株式會社副總裁	大	村	卓
同	一〇、二	委	南滿洲鐵道株式會社副總裁	佐々木	謙	一郎
同	一一、一〇	辭	前名古屋商工會議所會頭	伊	藤	次郎
同	一一、二〇	辭	前陸軍次官	山	脇	正
同	一一、二九	委	陸軍次官	阿	南	惟
同	一一、二九	辭	前外務次官	澤	田	廉
同	一一、二三	委	外務次官	谷	正	之
同	一二、二七	辭	前海軍航空技術廠長	花	島	孝

○一般會計
 (一) 昭和十三年度歲入歲出決算
 歲入

十六、會計

科	目	豫算額	決算額	増減	備考
第一款 資產收入	第一項 資產收入	一〇一、九四七〇〇	一〇七、三七七〇	四、四三〇	
	第一日 基本財産利子	一〇一、九四七〇〇	一〇七、三七七〇	四、四三〇	
	第二日 預金利子	九、四七〇〇	九三、四七九三	一、〇〇九	
		一一、四〇〇〇	一〇四、八九九七	三、四九九七	

昭和一五、一、三〇	委	囑	海軍航空技術廠長	杉	山	俊	亮
昭和一四、一二、二七	辭	任	前海軍技術研究所長	日	高	鑑	一
昭和一五、一、三〇	委	囑	海軍技術研究所長	都	築	伊	七
同	辭	任	前鐵道大臣官房研究所長	橋	口	行	彦
同	委	囑	鐵道大臣官房研究所長	黑	田	武	定
同	逝	去	東京帝國大學教授	石	本	巳	四雄

第二款 寄附金募集費	一八,〇〇〇〇〇	四,七〇〇〇〇	一三,二九九九
第一款 寄附金募集費	一八,〇〇〇〇〇	四,七〇〇〇〇	一三,二九九九
第三款 調査普及費	四〇,一〇〇〇〇	四,七〇〇〇〇	一三,二九九九
第一項 調査普及費	四〇,一〇〇〇〇	四,七〇〇〇〇	一三,二九九九
第二項 調査普及費	四〇,一〇〇〇〇	四,七〇〇〇〇	一三,二九九九
第一日 手當及給料	四,八〇〇〇〇	四,二一八〇〇	五八二〇〇
第二日 旅費	二,〇〇〇〇〇	一,二五三二七	七四六七三
第三日 調査及印刷費	二七,五〇〇〇〇	二,三九三七五	一三,五六三〇四
第四日 圖書費	一,二〇〇〇〇	八六二八五	三三七一五
第五日 會議費	二,〇〇〇〇〇	三,四九	一,九六八五一
第六日 雜費	二,六〇〇〇〇	二,四九三三六	一,六〇六四
第四款 研究費	一,三五,四一〇〇	一,一〇,三五九〇六	二,三二,八一四
第一項 手當	五,〇〇〇〇〇	四,八〇〇〇〇	二〇〇〇〇
第二項 旅費	一,三〇〇〇〇	一,一五〇〇〇	一,一五〇〇〇
第三項 委員諸費	一〇八,〇一〇〇〇	一〇一,六六三	六,三五三六九
第一日 手當及報酬	七六,五五〇〇	七四,七三〇〇〇	一,八一九〇〇
第二日 旅費	二七,九五〇〇	三三,七九四四五	四,一三〇五五
第三日 會議費	三,五〇〇〇〇	三,二四二八六	三,五八二四

調査及印刷費ヨリ流用増額一,〇〇〇圓
(自昭和十四年二月)
追加豫算額三五,〇〇〇圓ヲ合ム
九月十三日理事會承認

雜費ハ流用減額一,〇〇〇圓
(自昭和十四年二月)

第四項 常務費	八,八〇〇〇〇	八,三三五〇	四六一五〇
第五項 研究及助成費	一,二七,〇六五〇	八,三八五〇	四六一五〇
第一日 特別時局研究費	四八,〇〇〇〇	九六九,七二四六	一五七,七三三五四
第二日 研究及助成費	六六,七四五〇	三九,三〇〇〇〇	八七〇〇〇〇
第三日 官廳補助用途	一五,〇〇〇〇〇	六二,〇四七二六	五,二五七八四
第四日 指定研究費	三三,五三〇〇〇	一三,〇九六三一	一,九〇三六九
第五日 委託研究費	五五,〇〇〇〇〇	二二七,一三七九六	一八,一八三四
第六日 特別研究費	一一,〇〇〇〇〇	三三,二四八〇	三,七五二九〇
第六項 前年度繰越研究及助成費支出未済金	七五,一六〇〇	五七,〇〇一九三	五三,九九八〇七
第一日 研究及助成費	五,六六六〇〇	一八,三二七九	五六,八五三二
第二日 用途指定研究及助成費支出未済金	三三,五〇〇〇〇	一七,三〇四九九	三四,三六一〇一
第五款 臨時調査費	三三,六〇〇〇	一,〇〇七八〇	三三,四九三〇
第一項 臨時調査委員會費	三三,六〇〇〇	六,三三四二七	一六,三七五七三
第一日 手當謝儀	七,五八〇〇〇	六,三三四二七	一六,三七五七三
第二日 調査及印刷費	八,〇〇〇〇〇	三,三四〇〇〇	四,二四〇〇〇
第三日 旅費	四,三八〇〇〇	二,三三三三五	五,七七七七五
第四日 會議費	七,二〇〇〇	四,五〇〇〇〇	三,九三〇〇〇
第五日 雜費	二,〇〇〇〇〇	一,七九三五	一,八二〇六五
第六款 災害科學研究所費	五,〇〇〇〇〇	五,〇〇〇〇〇	〇

追加豫算額三五,〇〇〇圓ヲ合ム
九月十三日理事會承認

追加豫算額一〇,〇〇〇圓ヲ合ム
九月十三日理事會承認

追加豫算額二五,〇〇〇圓ヲ合ム
九月十三日理事會承認

第一項 災害科學研究所交付金	50,000.00	50,000.00	0	0	0	事務所新設 十二月十九日理事會承認
第一目 災害科學研究所交付金	50,000.00	50,000.00	0	0	0	豫備費ヨリ 十二月十九日理事會承認
第七款 物理探鑛試驗所費	164,750.00	36,760.00	10,338.00	25,988.00	0	豫備費ヨリ 十二月十九日理事會承認
第一項 事業費	56,250.00	46,270.00	10,338.00	10,338.00	0	豫備費ヨリ 十二月十九日理事會承認
第一目 特別時局研究費	2,000.00	0	2,000.00	2,000.00	0	豫備費ヨリ 十二月十九日理事會承認
第二目 事務費	36,250.00	22,600.00	5,400.00	5,400.00	0	豫備費ヨリ 十二月十九日理事會承認
第三目 試驗研究諸費	27,300.00	24,870.00	2,838.00	2,838.00	0	豫備費ヨリ 十二月十九日理事會承認
第二項 創立設備費	108,500.00	92,640.00	15,860.00	15,860.00	0	事務所新設 十二月十九日理事會承認
第一目 創立設備費	108,500.00	92,640.00	15,860.00	15,860.00	0	事務所新設 十二月十九日理事會承認
第八款 豫備費	24,000.00	0	24,000.00	24,000.00	0	事務所新設 十二月十九日理事會承認
第一項 豫備費	24,000.00	0	24,000.00	24,000.00	0	事務所新設 十二月十九日理事會承認
第九款 經費補充積立金	80,500.00	80,500.00	0	0	0	事務所新設 十二月十九日理事會承認
第一項 經費補充積立金	80,500.00	80,500.00	0	0	0	事務所新設 十二月十九日理事會承認
第一目 第一經費補充積立金	50,000.00	50,000.00	0	0	0	事務所新設 十二月十九日理事會承認
第二目 第二經費補充積立金	10,000.00	10,000.00	0	0	0	事務所新設 十二月十九日理事會承認
第三目 第三經費補充積立金	20,500.00	20,500.00	0	0	0	事務所新設 十二月十九日理事會承認
第十款 基本財産繰入	33,000.00	33,000.00	0	0	0	事務所新設 十二月十九日理事會承認
第一項 基本財産繰入	33,000.00	33,000.00	0	0	0	事務所新設 十二月十九日理事會承認
第一目 基本財産繰入	33,000.00	33,000.00	0	0	0	事務所新設 十二月十九日理事會承認

第七款 事務所新設費	19,760.00	0	19,760.00	19,760.00	0	豫備費ヨリ 十二月十九日理事會承認
第一項 事務所新設費	19,760.00	0	19,760.00	19,760.00	0	豫備費ヨリ 十二月十九日理事會承認
第一目 事務所新設費	19,760.00	0	19,760.00	19,760.00	0	豫備費ヨリ 十二月十九日理事會承認
歳入歳出差引額	1,790,830.00	1,469,359.92	39,670.08	39,670.08	0	
歳入歳出差引額	0	433,469.70	0	433,469.70	0	

歳入歳出差引額 昭和十四年度へ繰越

内 譯

用途指定寄附金 一二九、七六六・〇〇

事業費支出未済金 七八、九九八・〇〇

特別時局研究費支出未済金 八、五〇〇・〇〇

特別研究費支出未済金 五二、〇〇〇・〇〇

繰越金 一六四、二〇五・七〇

○特別會計 (災害科學研究所)

第八目 滿洲委員會費	五,000.00		五,000.00
第四款 研究費	一,七〇,七九〇.00		一,七〇,七九〇.00
第一項 手當	五,000.00	學術部長、常務擔任理事等手當	五,000.00
第二項 旅費	一,三〇〇.00	學術部長、常務擔任理事等旅費	一,三〇〇.00
第三項 委員諸費	一四、八五〇.00	學術部委員長、委員等手當八九、七六五圓、特別報酬一五、二〇〇圓、學術部委員長、委員等旅費三七、三二〇圓、研究發表、研究懇談會及視察委員等旅費二、五〇〇圓、學術部委員會、研究發表會等諸費	一四、八五〇.00
第四項 常務費	二二,〇〇〇.00	囑託員手當三、〇〇〇圓、器具、消耗品、通信、運搬、其他諸費三、六〇〇圓、事業報告、印刷一、八〇〇圓、綜合研究、概要印刷、印刷補助事項、抄錄印刷、援助補助索引整理費二、〇〇〇圓	二二,〇〇〇.00
第五項 研究及助成費	一,三三,〇〇〇.00	時局ニ關スル緊急問題研究費	一,三三,〇〇〇.00
第一目 特別時局研究費	〇	研究、援助、補助費	〇
第二目 官廳補助用途指定研究費	三,〇〇〇.00	(收入金支辨) 外務省指定滿蒙北支衛生學的研究費一五、〇〇〇圓、南洋廳指定熱帶生物研究費八、〇〇〇圓、用途指定寄附金充當研究、援助補助費	三,〇〇〇.00
寄附金			
內			
譯			

第四項 事務所費	九,六五〇.00		九,六五〇.00
第一目 用度費	七,四〇〇.00	器具費一、一八五圓、燃料費四一〇圓、圖書印刷、各種用紙二、二〇〇圓、通信料一、〇四〇圓、運搬費一、〇八八圓、雜費八五〇圓	七,四〇〇.00
第二目 集會費	二,二五〇.00	諸會議費一、八〇八圓、接待費七〇〇圓	二,二五〇.00
第五項 職員福利施設補助費	二,〇〇〇.00		二,〇〇〇.00
第一款 寄附金募集費	一八,〇〇〇.00		一八,〇〇〇.00
第一目 寄附金募集費	一八,〇〇〇.00	諸印刷、消耗品、通信、運搬諸費二、七五〇圓、旅費二、〇〇〇圓、懇談會諸費六、〇〇〇圓、囑託手當及謝金三、七五〇圓、縣寄附金募集依頼費三、〇〇〇圓、府	一八,〇〇〇.00
第三款 調査普及費	四〇,一〇〇.00		四〇,一〇〇.00
第一項 調査普及費	四〇,一〇〇.00	囑託員手當、雇員給料	四〇,一〇〇.00
第二項 旅費	二,〇〇〇.00	役員委員職員等旅費	二,〇〇〇.00
第三項 調査及印刷費	一八,五〇〇.00	日本重要研究機關要覽印刷三、〇〇〇圓、外國研究所及研究要覽印刷四、三〇〇圓、外國特許要覽其他必要ナル事項調査及印刷三、八〇〇圓、雜誌(學術振興)印刷四、二〇〇圓、事業報告、年報諸印刷三、二〇〇圓、參考圖書	一八,五〇〇.00
第四項 圖書費	一,二〇〇.00	講演會諸費一、二〇〇圓、委員會其他會議諸費八〇〇圓	一,二〇〇.00
第五項 會議費	二,〇〇〇.00	圖書整理、器具消耗品費三〇〇圓、通信運搬諸費八七〇圓、用紙類、文具、雜用品、附費等四三〇圓	二,〇〇〇.00
第六項 雜費	一,六〇〇.00		一,六〇〇.00
第七項 朝鮮委員會費	五,〇〇〇.00		五,〇〇〇.00

歲出合計	研究新營費建築費			
	第一目設備費	第二目會議費	第三目研究費	第二項研究所設備費
三九、四九〇〇〇	二八、四九〇〇〇	三、〇〇〇〇〇	九、〇〇〇〇〇	二八、四九〇〇〇
	<p>內</p> <ul style="list-style-type: none"> 風洞建設費二七、一〇〇〇圓 土地整理費一、三〇〇〇圓 機器試驗機五二、〇〇〇圓 材料試驗機二六、三九〇〇圓 學機二〇〇圓 實驗臺二〇〇圓 電氣計器一、五〇〇圓 測量機八、〇〇〇圓 天稱機七、〇〇〇圓 線通信機一〇〇圓 工作機械一五〇〇圓 測量機八、〇〇〇圓 天稱機七、〇〇〇圓 超音波發生機一〇〇圓 電波器具五、〇〇〇圓 計算器四、〇〇〇圓 圖書九、〇〇〇圓 裝置四〇〇圓 オツシログラフ一、五〇〇圓 實驗用雜品三八九〇圓 豫備費二〇〇〇圓 	<p>內</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅費一、〇〇〇圓 常議員會等會議諸費一、〇〇〇圓 雜費一〇〇〇圓 	<p>內</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究員等俸給料手當三七、〇〇〇圓 委託研究費六、〇〇〇圓 同上旅費六、〇〇〇圓 實驗及材料費三一、〇〇〇圓 圖書及印刷諸費七、〇〇〇圓 消耗品、通信運搬、其他諸費一〇〇〇圓 	
七三、四〇〇〇〇	四三、六〇〇〇〇	五、〇〇〇〇〇	九五、〇〇〇〇〇	四三、六〇〇〇〇
〇	〇	〇	〇	〇
三九、四九〇〇〇	二九、二〇〇〇〇	二、〇〇〇〇〇	二、〇〇〇〇〇	二九、二〇〇〇〇

歲入合計	第一項用途指定寄附金			
	第一目雜收	第二目事業費寄附金	第五款雜收	第一項雜收
三九、四九〇〇〇	二五、〇〇〇〇〇	一〇、〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇	八〇、五〇〇〇〇
	<p>內</p> <ul style="list-style-type: none"> 經常費五〇、〇〇〇圓 臨時費一九五、〇〇〇圓 			
七三、四〇〇〇〇	六五、二四〇〇〇	一〇、〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇	八〇、五〇〇〇〇
〇	〇	〇	〇	〇
三九、四九〇〇〇	三六、〇〇〇〇〇	二、〇〇〇〇〇	二、〇〇〇〇〇	三六、〇〇〇〇〇

歲出

第一項研究費	第一項研究費	第一目事務費	科	豫十四年度	
				額	增減
二五、〇〇〇〇〇	二五、〇〇〇〇〇	一五、〇〇〇〇〇	豫	十四年度	額
〇	〇	〇	摘	要	
二五、〇〇〇〇〇	二五、〇〇〇〇〇	一五、〇〇〇〇〇	豫	十三年度當初	額
〇	〇	〇	增	減	〇
二五、〇〇〇〇〇	二五、〇〇〇〇〇	一五、〇〇〇〇〇	豫	十三年度當初	額
〇	〇	〇	增	減	〇

(三) 昭和十四年度基本財産 (昭和十五年三月三十一日現在)

區分	受		拂		現在高	現在高區分
	前年度ヨリ繰越	本年度	前年度ヨリ繰越	本年度		
基 本 財 産	二、五九、三三九七	一〇七、六八〇〇	二、六六、九三九七	〇	二、六六、九三九七	二、六六、九三九七
帝 室 御 下 賜 金	一、五〇〇,〇〇〇〇	〇	一、五〇〇,〇〇〇〇	〇	一、五〇〇,〇〇〇〇	一、五〇〇,〇〇〇〇
文 部 省 交 付 金	一〇,〇〇〇〇〇	〇	一〇,〇〇〇〇〇	〇	一〇,〇〇〇〇〇	一〇,〇〇〇〇〇
寄 附 金	五四六、九四八〇	八二、六八〇〇	六九、六四八〇	〇	六九、六四八〇	六九、六四八〇
歳 計 剩 餘 金	四三、三五八二七	二五、〇〇〇〇〇	四七、三五八一七	〇	四七、三五八一七	四七、三五八一七

(四) 昭和十四年度積立金 (昭和十五年三月三十一日現在)

區分	受		拂		現在高	現在高區分
	前年度ヨリ繰越	本年度	前年度ヨリ繰越	本年度		
第一經費補充積立金	三、四三、四〇〇	六三、九三三	三、九七、三三三	〇	三、九七、三三三	三、九七、三三三
第二經費補充積立金	六三、五〇七三	三三、〇八六九	八五、七九四三	〇	八五、七九四三	八五、七九四三
第三經費補充積立金	四九、八七七一	七四、〇九五七	三三、九八二八	〇	三三、九八二八	三三、九八二八
第一銀行定期預金	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三井銀行定期預金	〇	〇	〇	〇	〇	〇
第一銀行定期預金	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三井銀行定期預金	〇	〇	〇	〇	〇	〇
住友銀行定期預金	〇	〇	〇	〇	〇	〇
第一銀行定期預金	〇	〇	〇	〇	〇	〇
安田銀行定期預金	〇	〇	〇	〇	〇	〇
第一銀行定期預金	〇	〇	〇	〇	〇	〇

(五) 昭和十五年三月三十一日現在不動産

用途指定寄附積立金	合 計
二五、五三九六	六三、二九八〇
四、五〇八六四	一〇、四三四
五、〇〇〇〇〇	二五〇,〇〇〇〇
八〇,七三六〇	四三、七四九四
三、九〇六、四三	
四、六七一	

種 目	員 數	構 造	平 面 積	價 格	所 在	備 考
本會事務所	一棟	木造二階建	五五坪	三〇,六三三	東京市麹町區霞ヶ關三ノ四	昭和十四年十月十二日竣工
パラオ熱帯生物研究所	一棟	木造平家建	二四〇〇	四、六四七〇	南洋パラオ諸島	昭和十年四月一日竣工
附屬第一號	一棟	同	六〇〇〇	九九五〇	南洋パラオ諸島	昭和十一年三月十四日竣工
附屬第二號	一棟	同	三〇〇〇	四五〇〇	南洋パラオ諸島	昭和十一年三月十四日竣工
附屬室及物置	一棟	同	三〇〇〇	四五〇〇	南洋パラオ諸島	昭和十一年三月十四日竣工

(災害科學研究所)

種 目	員 數	構 造	平 面 積	價 格	所 在	備 考
第一部研究室本館	一棟	鐵筋コンクリート造	七三三坪	六四、六四三六〇	大阪市東成區勝山通九丁目七ノ二	昭和十三年五月二十五日竣工
同 輸 送 室	一棟	同 平 家 建	一三〇	一四、二七三五〇	大阪市北區東野田町九丁目	昭和十三年十二月二十日竣工
同 渡 廊 下	一棟	同 平 家 建	八六二	一四、二七三五〇	大阪市北區東野田町九丁目	昭和十三年十二月二十日竣工
同 鐵筋コンクリート造	一棟	同 平 家 建	一五九二七	一四、二七三五〇	大阪市北區東野田町九丁目	昭和十三年十二月二十日竣工

同 第一材料研究室	棟	木造 平家建	三〇〇〇	三、六三三〇	同	昭和十三年六月三十日竣工
同 第二材料研究室	棟	同	一五〇〇	三、三九一七〇	同	同
同 風洞實驗室	棟	鐵筋コンクリート造	六〇九三	二〇、四九三〇	同	昭和十四年三月二十日竣工
同 機械室	棟	鐵筋コンクリート造	一四九六	同	同	同
同 工作室	棟	鐵筋コンクリート造	五〇〇〇	一四、二〇二八〇	同	昭和十三年五月二十五日竣工

○昭和十四年度新規寄附金品

寄附金

昭和十四年度に於ける新規寄附申込總額は計金貳拾壹萬五千八拾參圓八拾八錢にして内一般會計に屬するもの金貳拾壹萬壹千八拾參圓八拾八錢、別に特別會計（災害科學研究所）に屬するもの金四千圓にして寄附者氏名及寄附金額左の如し。（十五年三月三十一日現在）

一般會計に對する寄附金

金額	年賦	寄附者	備考
一金貳萬圓也	一	南滿洲鐵道株式會社	物理探礦試驗所事業費
一金壹萬參拾參圓八拾八錢也	一	山本敬藏	獨逸製優秀品ヲ凌駕スル裝置、機械器具ノ何レカヲ案出スル研究費
一金五萬圓也	一	三井報恩會	金壹萬圓元素人工轉換、金壹萬五千圓合成ゴム
一金五千圓也	一	帝國人造絹糸株式會社	植物纖維原料の調査研究
一金五千圓也	一	東洋レーヨン株式會社	植物纖維原料の調査研究

寄附品

品名	數量	摘要	寄附者
高周波電氣爐附屬裝置	一式	此の價格金參千圓也	東京芝浦電氣株式會社

合計金四千圓也

合計金貳拾壹萬壹千八拾參圓八拾八錢也

特別會計に對する寄附金（災害科學研究所）

一金參千圓也	一	藤倉工業株式會社	毒瓦斯關係研究費
一金參萬圓也	一	日本鋼管株式會社	特種鋼製造研究費
一金四萬圓也	一	石原曠	故石原宗助氏記念資金研究ニ關スル調査費
一金參千圓也	一	匿名氏	還曆記念として基本金
一金貳萬圓也	一	日立製作所	電氣材料の研究
一金壹萬五千圓也	五	日本電氣株式會社	電氣通信
一金五拾圓也	一	石原曠	第一次寄附金共計壹百圓
一金壹萬圓也	一	滿洲礦業開發株式會社	物理炭鐵試驗所經費トシテ申込ニ係ル第一次寄附金參千五百圓ニ追加増額

(附錄)

本會編纂圖書目錄

(一五年二月)

(一) 一般關係

○雜誌「學術振興」 隔月刊 一冊

三編
三編

學術研究ノ獎勵普及紹介並本會事業ノ紹介等
第三號ニテ廢刊ス

○「外國特許要錄」

「外國特許要錄」ハ次記ノ如クニ年四回ノ定期刊行物ト
シ内容ハ速報ヲ旨トシテ改善シ技術家、設計家、發明
家ノ參考タラシメントセルモノデ、産業界ニ對スル本
會ノ奉仕的出版デアル

機械(精密機械・化學機械)
電氣(強電流・弱電流)

纖維加工・航空機・金屬材料

以上一括掲載 發行日 一月、四月、七月、十月

(養賢堂發行)

○外國特許要覽

○外國特許

既刊分ノ殘部アリ御紹介ヲ乞フ

○外國研究所要覽

名	稱	發行年月	定價	郵稅
(一)ドイツノ部	一、學術振興團體	九、三、	一、五〇	三
(二)ドイツノ部	二、醫學的研究機關	九、三、	一、五〇	三
(三)ドイツノ部	三、理化學的研究機關	三、五、	一、五〇	三
(四)ドイツノ部	四、技術的研究機關	三、八、	一、五〇	三
(五)ドイツノ部	五、社會科學的研究機關	三、一〇、	一、五〇	三
(六)ソウイェト聯邦ノ部		一〇、七、	一、五〇	三
(七)英國ノ部	學術産業研究局	三、一三、	一、五〇	三
(八)英國ノ部		四、八、	一、五〇	三
(九)米國ノ部	國民研究會議	四、一〇、	一、五〇	三
○外國研究要覽		一〇、五、	一、五〇	三
(一)産業に關する米國大家の論文摘錄		三、四、	(再版)	六

○全國試驗研究調查機關要覽

第一編	法制、經濟文學	三、三、	五	九
第二編	醫學、自然科學	一、五、	七	三、〇
第三編	工業	一〇、一〇、	六	九
第四編	農業			

○全國學術協會要覽

三、八、一〇〇 三

○日本並主要歐米學術獎勵機關要覽

二、一〇、七〇六

○考查委員會報告

- 一、東北振興考查委員會報告 二、三、一〇、一〇五
- 二、國民保健ニ關スル統計資料 本文(缺本)
- 三、同 統計圖表 三、六、一、五〇 三
- 四、國民食糧ノ現狀(社會經濟並保健ニ關スルモノ) 三、五、一、九〇 一八
- 五、國民食糧ノ現狀(水産食糧ニ關スルモノ)(缺本) 一四、二、一、六〇 一八
- 六、國民食糧ノ現狀(農畜物ニ關スルモノ) 一四、三、九〇 九

(特別及小委員會關係)

○滿洲農業移民問題の研究 (第二特別委員會)

- 第一篇 滿洲農業移民の必要及び可能性 一〇、三、一〇、一〇〇 (再版) 三
- 第二篇 滿蒙移民機關に關する諸家の意見 一〇、四、一、一〇 三
- 第三篇 日滿經濟統制と農業移民 一〇、四、一、一〇 九
- 第四篇 滿蒙農業移民機關の形態 二、二、一、一〇 三
- 第五篇 滿洲農業移民文獻目錄 二、七、一、一〇 九
- 第六篇 滿洲の牧 羊 二、一〇、一、一〇 九
- 第七篇 滿洲移民問題と實績調査 三、三、一、一〇〇 九

第八篇 滿蒙農業移民機關の組織及監督 三、三、一〇、一〇〇 三

○植物纖維原料の研究 (第六特別委員會)

一、三、四、一、〇〇 九

○金屬材料常數編纂 (舊第二小委員會)

- I 應力論 一三、一〇、八、〇〇 三
- IV 金屬各論 一三、二、三、〇〇 三
- V 用途別索引 一四、二、二、〇〇 三

○流行性腦炎ノ研究 (第三小委員會)

第一號 日本ニ於ケル流行性腦炎ノ流行學的調査報告 二、六、一、五〇 一五

○電氣熔接に關する研究 (舊第四小委員會)

- I 銅及び其の合金、電氣熔接に關する研究 一三、三、一、五〇 九
- II 輕合金の電氣熔接に關する研究 一三、三、一、〇〇 九
- III 低炭素鋼の電氣熔接に於ける熱影響に關する基本的研究 一四、三、一、〇〇 六
- IV 熔接T接手の研究 一四、一、一、〇〇 三
- V 熔接部の振動強度並衝撃に對する信頼度に關する研究 一四、三、一、〇〇 九
- VI 熔接機器ニ關スル研究 一五、三、一、五〇 三
- VII 軟鋼用熔接棒心線の適當な化學成分 一四、三、一、〇〇 六
- VIII 電極棒並ニ熔接部ノ冶金學的基礎研究 一五、三、一、〇〇 三

- IX 薄板の電氣熔接に關する研究 一四、八、一、二五 三
- X 厚板の電氣熔接に關する研究 一四、四、一、〇〇 六
- XI 軟鋼熔接部の物理的性質に對する温度の影響に關する研究 一四、二、一、五〇 九
- XII 鑄鋼と鋼板との熔接に關する研究 一四、九、一、〇〇 三
- XIII 高速度活動寫眞ニヨル心線熔融移行狀態ノ研究 一五、三、一、二五 三

○金屬木材等、腐蝕防止方法ニ關スル調査

並ニ研究 (第五小委員會)

- 第一號 分解蒸溜裝置ニ於ケル腐蝕防止ノ研究 (第一報) 二、五、一、一五 三
- 第二號 分解蒸溜裝置ニ於ケル腐蝕防止ノ研究 (第二報) 二、五、一、二〇 三
- 第三號 復水器管腐蝕實狀調査 二、七、一、三五 六
- 第四號 腐蝕及防蝕ノ實況調査報告(第一報)各種耐蝕性材料報告(第一報) 二、八、一、四〇 六
- 第五號 腐蝕及防蝕ノ實況調査報告(第二報) 二、九、一、一〇〇 九
- 第六號 分解蒸溜裝置ニ於ケル腐蝕防止ノ研究 (第三報) 二、八、一、一〇〇 三
- 第七號 食鹽水ニ對スルマグネシウム合金ノ耐蝕性ニ及ボスマンガンアルミニウム、カドミウム亞鉛其ノ影響 三、六、一、三五 六
- 第八號 分解蒸溜裝置ニ於ケル腐蝕防止ノ研究 (第四報) 三、七、一、一五 三
- 第九號 腐蝕及防蝕ノ實況調査 (第三報) 三、一、一、五〇 六

○米穀問題の根本研究 (舊第六小委員會)

- 第一冊 米穀日誌 自大正元年年度至昭和九年年度 一〇、六、一、五〇 一五
- 第二冊 米穀需要法則の研究 一〇、七、一、七〇 六
- 第三冊 朝鮮米穀經濟論 一〇、七、一、七〇 九
- 第四冊 米價の長期變動 一〇、七、一、八〇 六
- 第五冊 米穀配給組織及び配給費 一三、三、一、(再版) 六
- 第六冊 朝鮮米生産費に關する調査 二、六、一、七〇 九
- 第七冊 期米價格と正米價格との關係の統計的研究 二、八、一、七〇 九
- 第八冊 米穀統制政策と米穀取引所の機能 二、九、一、五〇 九
- 第九冊 米穀流通費用の研究 二、一〇、一、七〇 一五
- 第十冊 米穀需給調節特別會計の財政及び金融に及ぼせる影響 二、一〇、一、五〇 六

第二冊 米穀專賣制の研究 三、四、一〇〇 三
 第二冊 米穀自治的販賣統制 三、三、一〇〇 九
 第三冊 米穀の消費統計に關する調査 三、三、一〇〇 六
 第三冊 米價變動と景氣變動 三、三、一〇〇 六
 米穀經濟ノ研究 (一) 一四、二、三〇〇 一八
 米穀經濟ノ研究 (二) 一五、五、三〇〇 一八

○結核豫防の研究 (第八小委員會)

犢牛に於けB.C.G.接種施行成績總覽 三、七、三〇〇 三

○アイヌに關する研究 (舊第八小委員會)

RASSENKUNDE der AINO (缺本) 三、三、一〇〇〇 三

○明治以降立法史料の蒐集及び編纂(第九小委員會)

國際法 第一編 條約目錄 二、二、五〇〇 三

○南洋ニ於ケル熱帶生物研究 (第一小委員會)

巴拉オ熱帶生物研究所 第一號 (缺本) 三、三、二〇〇 三
 報告(英文) 第二號 三、三、三〇〇 五
 同 第三號 (缺本) 三、三、四〇〇 五
 同 第四號 (缺本) 四、九、四〇〇 五
 「科學南洋」一年三回二月、六月、十月發行 五、五、五〇〇 六
 ○米穀利用研究 (舊第二小委員會) 三、一〇、一〇〇 三
 研究終了報告

○染料研究 (第一二小委員會)
 染料年報 昭和十年(一九三五年)第一卷 三、四、一〇〇 三
 昭和七年(一九三六年)第二卷 三、三、一〇〇 三
 昭和七年(一九三七年)第三卷 (共立會發行) 四、二、三〇〇 三

染料品位檢定法

第一號 精製ベンゾール及精製トリオール 三、五、一〇〇 三
 第二號 精製ナフタリン 三、五、一〇〇 三
 第三號 アントラセン 三、五、一〇〇 三
 第四號 アニリン 三、五、一〇〇 三
 第五號 レゾルシン 三、五、一〇〇 三
 第六號 B ナフトール 三、五、一〇〇 三
 第七號 II 酸 三、五、一〇〇 三
 第八號 精製サルチル酸 三、五、一〇〇 三
 第九號 γ 酸 三、五、一〇〇 三
 第一〇號 無水フタル酸 三、五、一〇〇 三
 第二號 ベンチン及硫ベンジチン 三、五、一〇〇 三
 第三號 ニトロベンゾール 三、五、一〇〇 三
 第三號 α ナフチルアミン 三、五、一〇〇 三
 第四號 O-トルイヂン 三、五、一〇〇 三
 第五號 精製フェノール 三、五、一〇〇 三
 第六號 トリチン及硫酸トリチン 三、五、一〇〇 三
 第七號 精製ワロルベンゾール 三、五、一〇〇 三

第八號 ギアニンチン 一四、七、一〇〇 三
 第九號 精製「メチリアニン」 一四、三、一〇〇 三

○觸媒研究 (第一三小委員會)

我國ニ於ケル觸媒作用ノ研究 (第一輯) 二、五、五〇〇 三
 觸媒研究講演集 (第一輯) 一五、一、七〇〇 六

○耐震構造の研究 (第一四小委員會)

研究報告 第一號 三、三、二〇〇 一八

○日本古典翻譯 (第一七小委員會)

The Manyōshū 一五、四、八〇〇 三

○特殊鋼材製造 (第一九小委員會)

I 特殊鋼材ノ缺點ニ關スル文獻(缺本) 一〇、九、一〇〇 九
 II 特殊鋼材製造ニ關スル研究 (1) 二、九、一〇〇 三
 III 鐵及鋼ガス分析法ニ關スル研究 三、四、一〇〇 二
 IV 特殊鋼材製造ニ關スル研究 (2) 三、九、二〇〇 一五
 V 特殊鋼材製造ニ關スル研究 (3) 三、一、一〇〇 九
 VI 鐵及鋼酸素分析法ニ關スル研究 一三、三、一〇〇 九
 VII 特殊鋼材製造ニ關スル研究 (4) 一四、二、一〇〇 一五
 VIII 鐵及ビ鋼水素分析法ニ關スル研究 一四、九、一〇〇 六
 第一號 鐵及ビ鋼窒素分析法 一、二、一〇〇 三
 第二號 鋼材鍛錬作業ノ稱呼及ビ鍛造比表示方式 二、三、一〇〇 三
 第三號 鐵及ビ鋼酸素分析法 三、三、一〇〇 三

○自作農制研究 (第二二小委員會) (有斐閣發行)

時局と農村 第一卷 三、七、二〇〇 一八
 時局と農村 第二卷 三、八、二〇〇 一五
 時局と農村 第三卷 一四、八、二〇〇 一八
 農地問題の研究 (一) 土地利用組合の研究 一四、一〇、四〇〇 一八
 (二) 農地を繞る諸問題 一四、一〇、二〇〇 三
 農業金融の理論と實際 一四、九、二〇〇 三
 米穀經濟の研究 一四、一、三〇〇 一八

○小賣商問題研究 (第二三小委員會)

小賣商困窮の意味と困窮原因の所在 三、一、一〇〇 九
 小賣商許可制の研究 三、一、一〇〇 九
 商店法に關する研究 三、四、一〇〇 九
 百貨店法に關する研究 三、三、一〇〇 九
 産業組合政策と課税問題 三、五、一〇〇 九
 小賣營業と課税問題 三、五、一〇〇 九
 小賣商廉賣問題 一四、五、一〇〇 九
 小賣業統制論 一三、二、一〇〇 九
 公私小賣市場の研究 一四、七、一〇〇 二
 ○鑄物研究 (第二四小委員會)
 II 鑄物に關する日本文獻集 一〇〇 六
 III 金屬の收縮に就て (第一報) 一四、一、一〇〇 三

IV	鑄造作業標準票(鐵鑄物) (第一號)	三五
V	同 (鋼鑄物) (第一號)	三〇
VI	同 (銅合金鑄物) (第一號)	三〇
VII	同 (輕合金鑄物) (第一號)	三〇
VIII	電氣爐鑄鐵の研究	一四、七、三〇
K	鑄物に關する外國文獻集	五〇〇

○合成ゴム研究 (第三一小委員會)

合成ゴム文獻集 (第一輯)	二〇〇
同 (第二輯)	九
(1929-34 Chemical Abstracts 抜萃)	三〇〇

○物價問題研究 (第三八小委員會)

物價問題の應急策	二〇〇
----------	-----

○特別及ビ小委員會ニ於ケル綜合研究ノ概要

第一回 (昭和十一年五月)	二、二、七〇
第二回 (昭和十二年五月)	三、二、一〇〇
第三回 (昭和十三年五月)	四、一、一五〇
第四回 (昭和十四年五月)	近刊

○委員總會研究報告講演集

(1) 米穀需要法則研究、流行性腦炎ニ就テ、電波傳播ニ就テ	二、五、三〇
(2) 高速活動寫眞攝影機ニ就テ、宇宙線ノ研究	三、一、三〇

(3) 重水ニ就テ、英譯萬葉集ニ就テ	一四、一、三〇
(4) 物理探鐵試驗所ノ事業ニ就テ 明治以降立法資料ノ蒐集ニ就テ	一五、一、三〇

○研究抄録

第五常置委員會 第一輯 (純正化學、應用化學、藥學、農藝化學、化學工業)	二、九、三〇
第六常置委員會 第一輯 (地質學、地理學、海洋學)	一四、八、一〇〇
第十一常置委員會 第一輯 (土木學、建築學)	三、八、一五〇

○事業報告 (一三年度)

事業報告 (一三年度)	一五、一、一五〇
-------------	----------

(以上賣捌所……本會、岩波書店、丸善株式會社、同文館)

昭和十五年八月十日印刷
昭和十五年八月十五日發行

[非賣品]

發行者 日本學術振興會

電話銀座(50) 五、二五二番
五、四五二番

編輯者 西 信 忠

印刷者 西 脇 嘉 清

印刷所 株式會社 一成 社

電話京橋(57) 〇〇三七三番
〇〇八一三番

三ノG43

終